



# 年度第2期 退魔部活動報告書

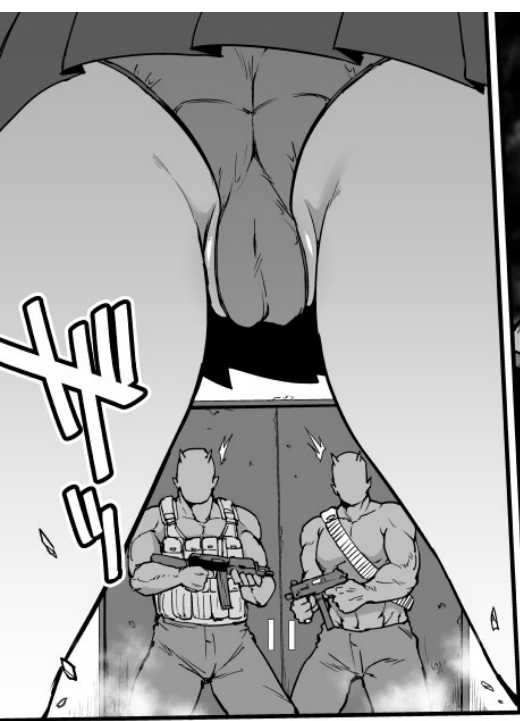
担当者  
記入日

20██/03/17

ページ	活動内容	備考
2	目次	
3	他学園との合同警邏活動	
4	各学園退魔部の活動内容、所属部員の紹介	四肢欠損/肉鎧
8	住宅街に出没した河童の討伐	尻子玉化/人格排泄
13	下水道の河童の巢の殲滅	尻子玉化/人格排泄
18	大量発生、および突然変異した河童の殲滅	尻子玉化/人格排泄
25	「現代社会」科目補講 ①	『JK退魔部』の世界観
26	警邏活動中に排魂の妖術師と遭遇	オナホ化/人格排泄
30	新入部員引率中に排魂の妖術師と遭遇	搾乳/人格排泄
32	鬼、妖狐の部員による妖魔の拠点強襲	腹パン/四肢欠損/子宮脱/人格排泄/オナホ化
38	管狐使いの退魔部員、精霊種の小鬼と遭遇	オナホ化/獣姦
44	写真部に協力し、広報の宣材写真撮影	淫乱化/乱交
58	宣材写真撮影メンバーと妖魔の人身売買拠点強襲	淫乱化
64	妖魔の地下オークションへ競売品として出品	オナホ化/人格排泄/尻子玉化/四肢欠損
76	買い取られた退魔部員、その後	人格排泄/膨乳/四肢欠損/腹パン/オナホ化/尻子玉化
86	「現代社会」科目補講 ②	『JK退魔部』の世界観
以降の記録は別の世界線における退魔部の活動報告となる。		
87	下水道に大量発生した触手妖魔の掃討	オナホ化
88	妖魔の拠点強襲中、ダイダラボッチと遭遇	床尻/腹パン/体格差/精液ボテ
94	誘拐された女性の救出中、第一級呪物と遭遇	コンドーション/オナカップ化/オナホ化
100	郊外に出没したヌリカベの討伐	壁尻/吸収
108	森林公園に出没した大蜘蛛の掃討	蟲姦/マミフィケーション/四肢欠損
114	違法な魔獣の取引拠点を強襲	搾乳/人格排泄/獣姦
118	行方不明の退魔部員捜索中、小鬼の群れに遭遇	オナホ化/人格排泄
120	魂を排泄後の退魔部員に寄生型妖魔が接触	人格排泄/寄生/乗っ取り
121	警邏中、吸収され魂魄吸収スライムを注入される	四肢欠損/腹パン/人格排泄
122	あとがき	

※四肢欠損等の報告もありますが、切断面/内蔵露出などの描写はありません。











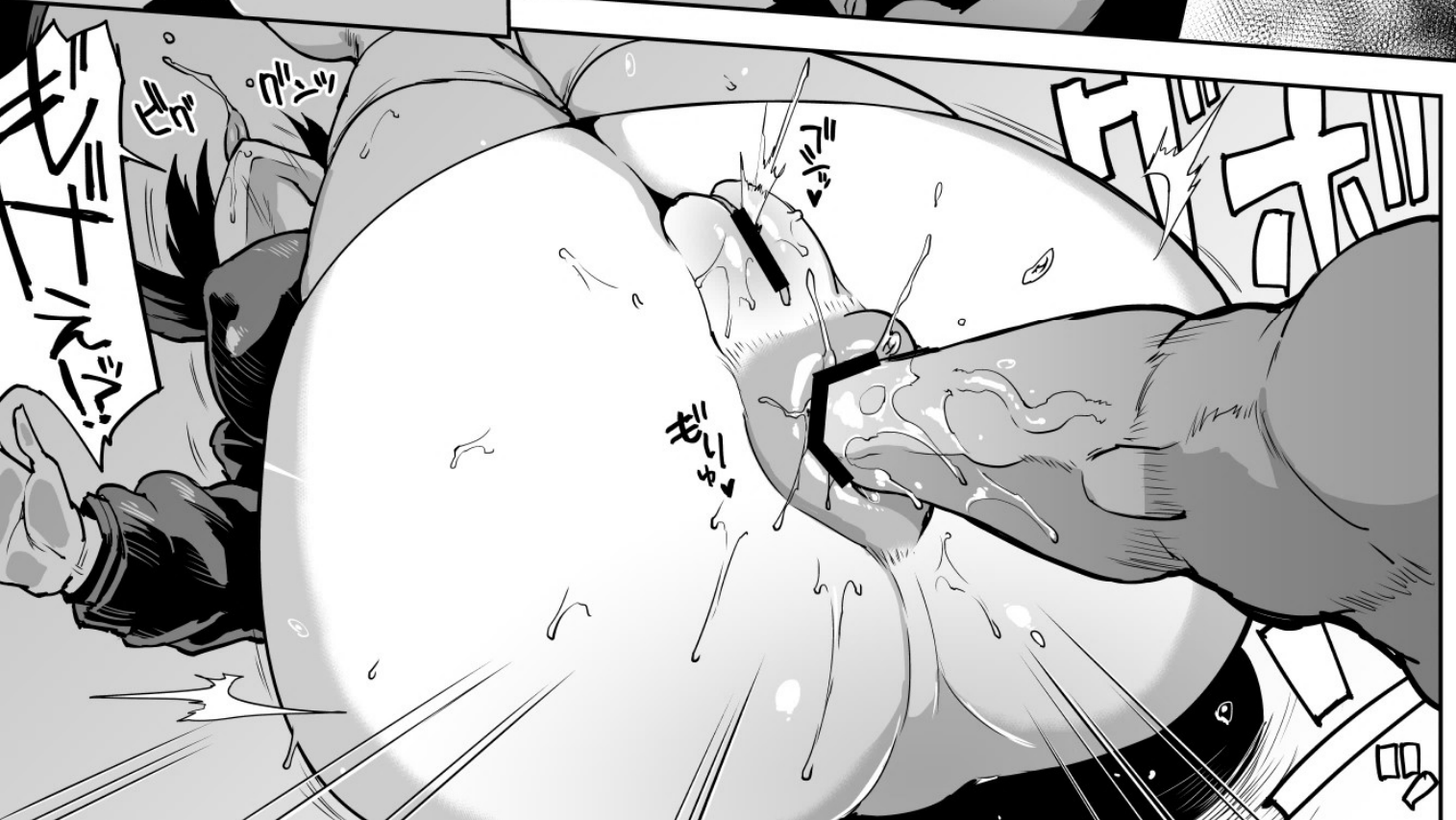








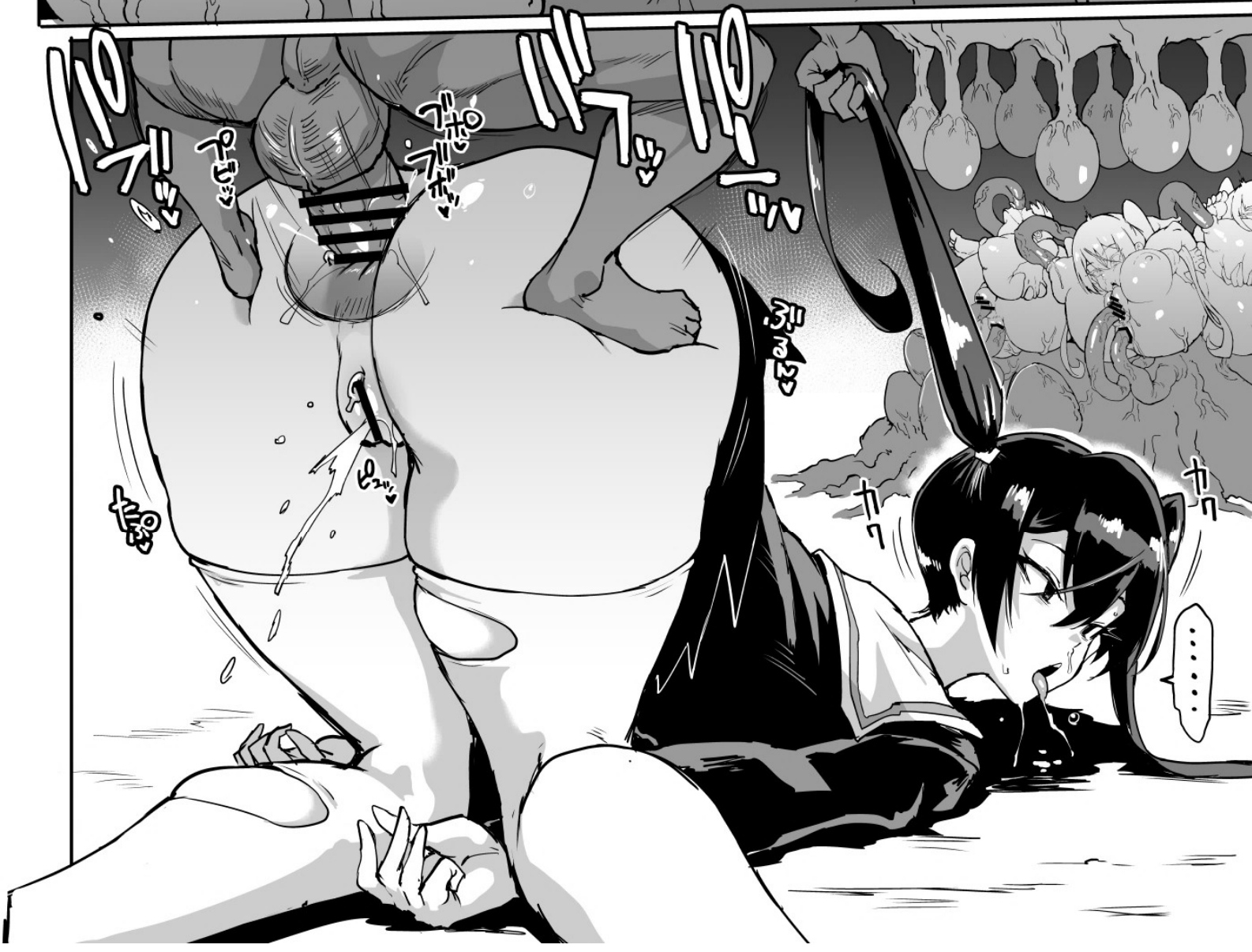


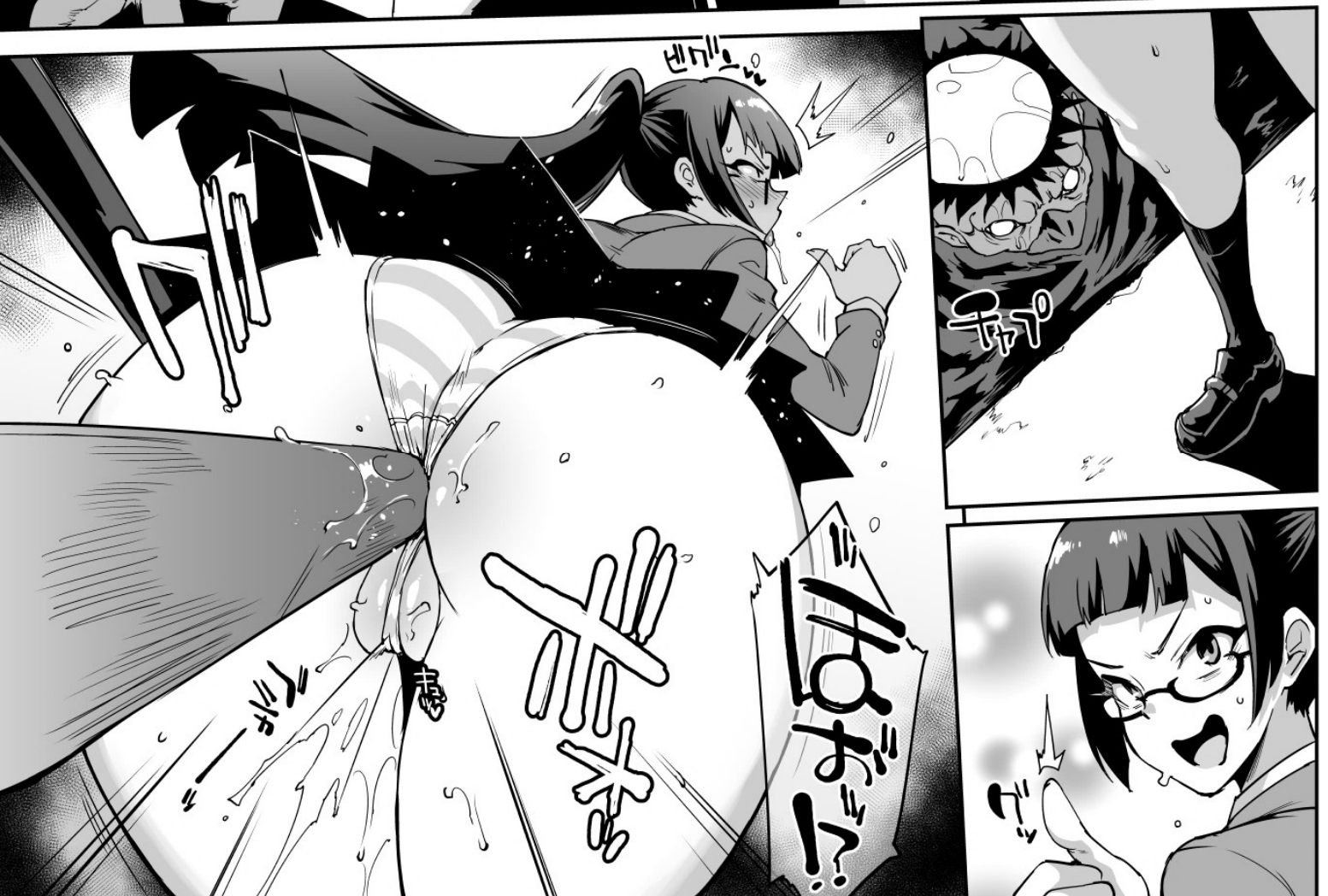














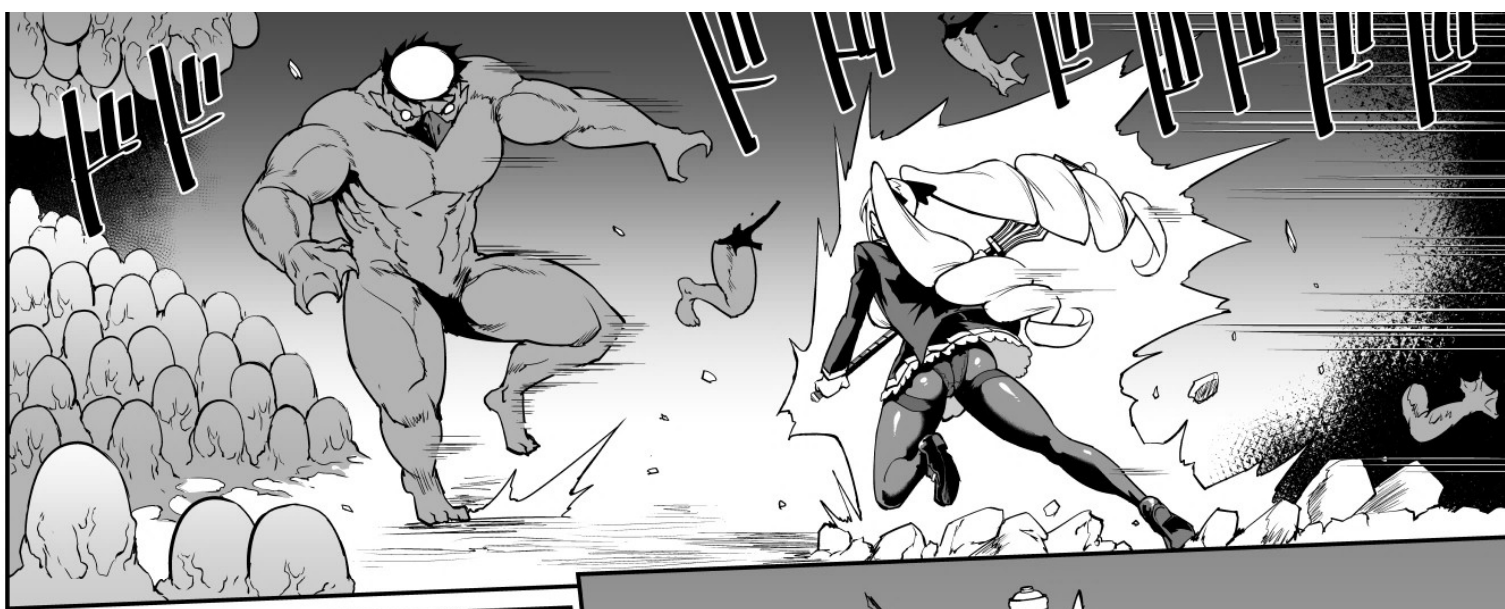


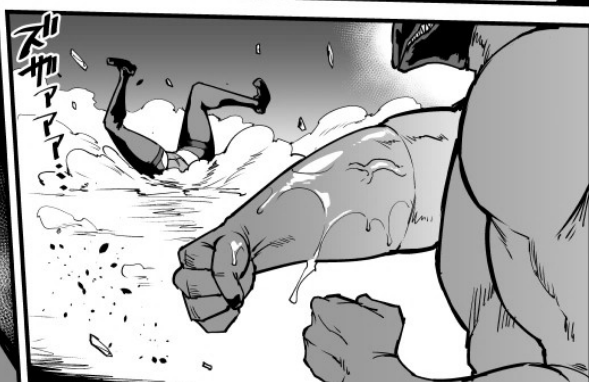












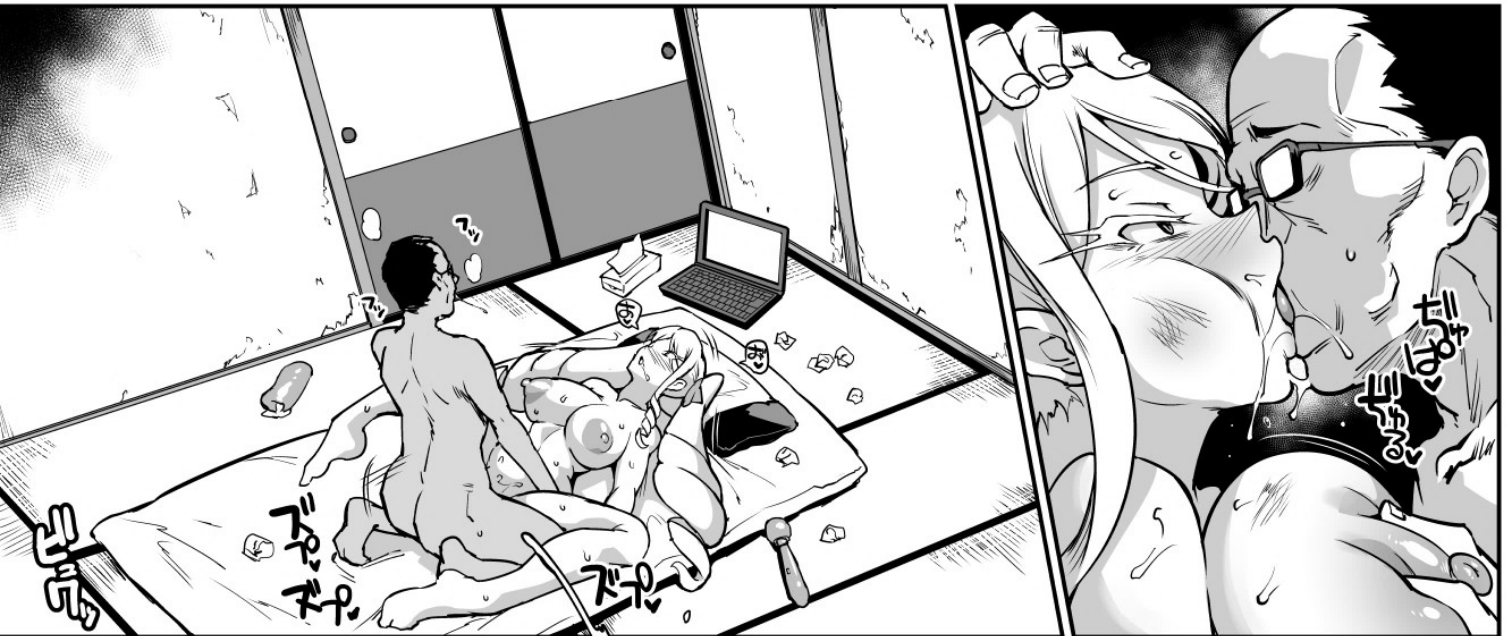
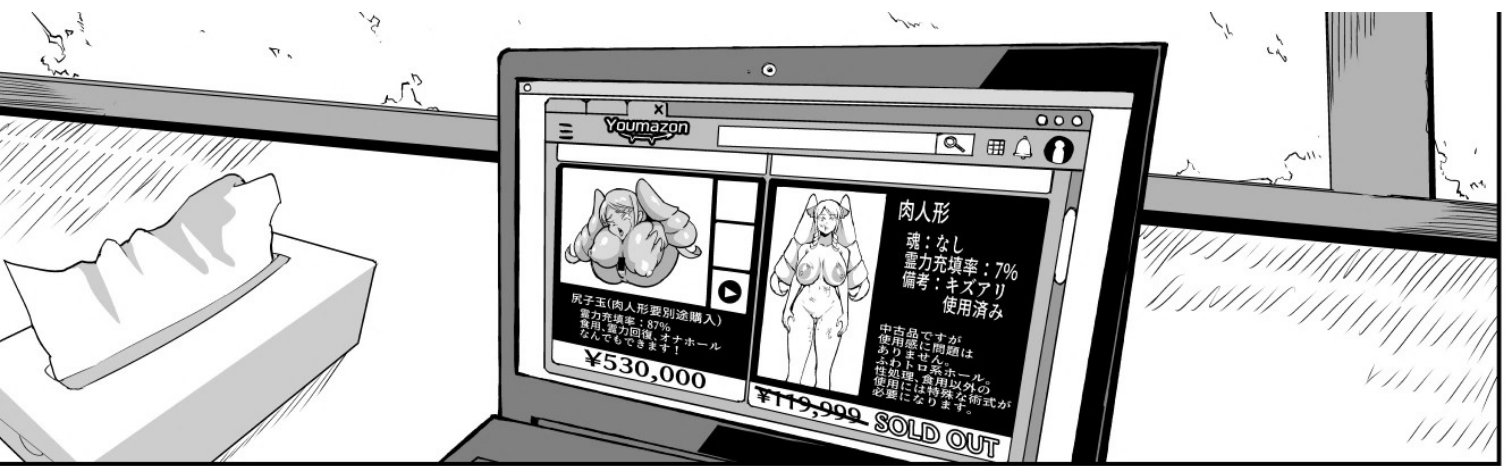














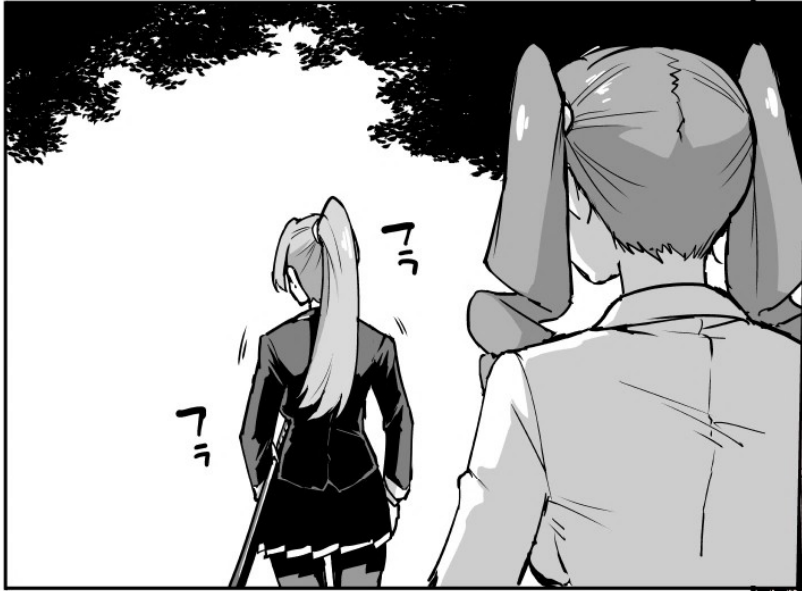
# 『JK退魔部』の世界 ①

## The World of JK TAIMA-CLUB

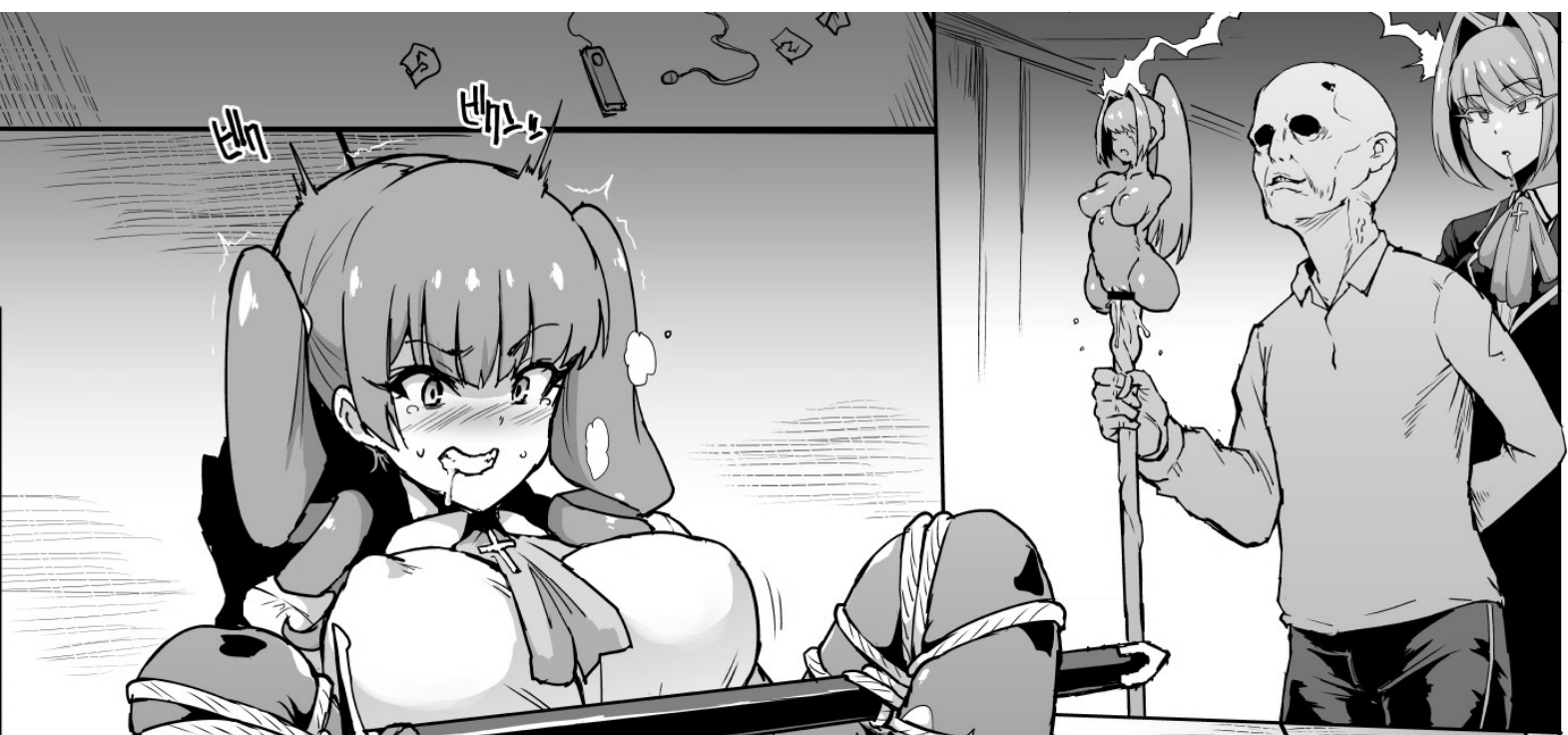
読み飛ばし推奨!

- ※1 「退魔JK」という呼称はスラングで、正式には退魔巫女と呼ばれる。
- ※2 退魔部活動は学業と同等もしくはそれ以上の成績評価の対象になっており、退魔部での結果は進学・就職に大きな影響がある。
- ※3 「妖魔」とは瘴気や怨念が形を持ったものの総称。形態や発生要件は多岐に渡る。人類社会由来の出自を持つ妖魔は特に人間へ害をなし、人口の多い都市部に多く発生する。
- ※4 妖魔への有効な対処法である「霊気」は女性(主に14~19歳)の子宮でしか生成できない。
- ※5 退魔巫女は子宮を中心に身体に刻印された霊力回路に霊気を走らせ霊術を使う。そのため妖気を帯びる妖魔の体液を子宮付近(膣や直腸)にあびると霊力回路が混線し霊術が使えなくなる。不活性化状態の霊気は妖魔の最大のエネルギー源ともなる諸刃の剣である。
- ※6 女性の毛髪は優秀な霊媒物質であり、子宮で出力された霊気を貯めておける。戦闘時に貯めておいた霊気を一気に解放することで爆発的な戦闘力を得ることができる。退魔巫女の多くが髪をポニーテールやツインテールに纏めているのは、大気と接触する表面積を減らし霊気の霧散を抑えるため。一度セットした退魔巫女の髪型は僅かな霊気で行使できる常時発動霊術によって保持され続けるため崩れることはない。
- ※7 人間の男性が大量の妖気に曝露すると細胞が崩壊し、最悪死に至る。
- ※8 ごく稀に大量の妖気に曝露しても死亡せず、細胞が突然変異し人間の男性でありながら妖術を行使できるようになる事例も存在する。彼らは「妖術師」と呼称される。
- ※9 「<sup>オーク</sup>悪鬼」は最もポピュラーな妖魔のひとつ。いわゆる鬼。成人男性を一回り大きくした体躯と怪力を持つ。人間ほどではないが知能は高く近代兵器も使用でき暴力性に富むが、協調性に乏しく組織的に行動することはないため退魔巫女の脅威ではない。上位種の妖魔や人間の反社会的団体により組織化された場合はその限りではない。
- ※10 妖魔には「精霊種」と呼ばれる有史以前から存在していた強大な個体も存在しており、対処が可能な退魔巫女はほぼ存在しない。精霊種には社会を容易に崩壊させる力を持つものも多いが、彼らにとって人間と関わることは最大の娯楽であり過度に人間社会へ害を及ぼさないようにしている。精霊種が気まぐれに人間と関わる時退魔巫女たちは一般人への防波堤、人柱としてまっさきに犠牲になる。遭遇はごく稀であるが、その存在が広く公になれば、退魔部の士気低下、志願数減少、ひいては人類社会の不安定化が懸念される。そのため、一般には秘匿されており通常の退魔巫女には都市伝説として伝わるのみである。





















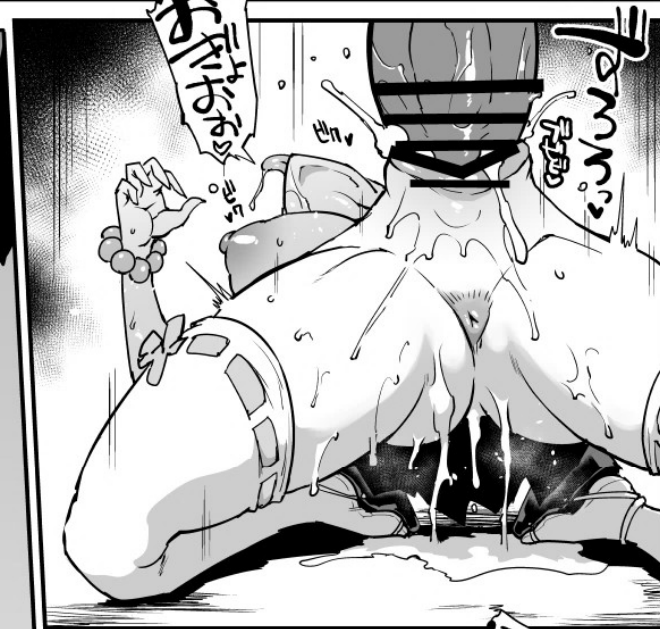






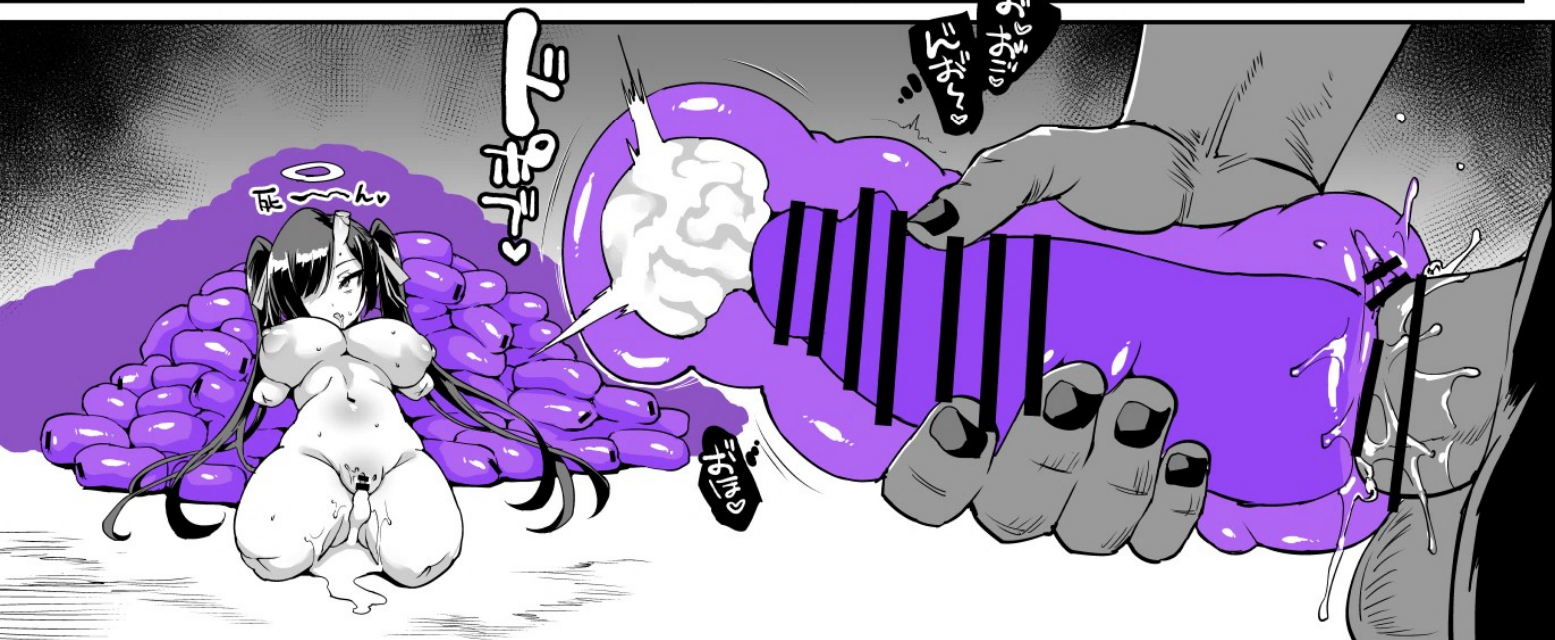




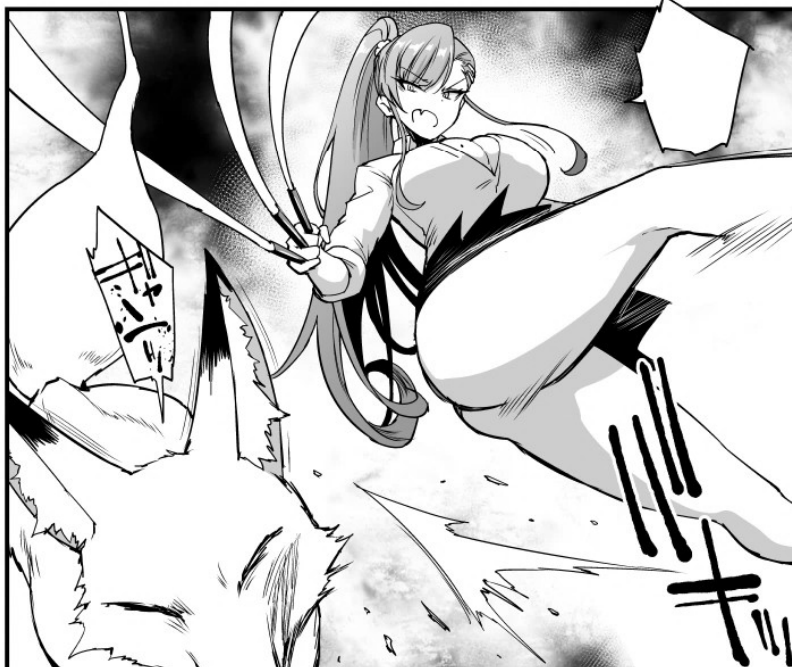
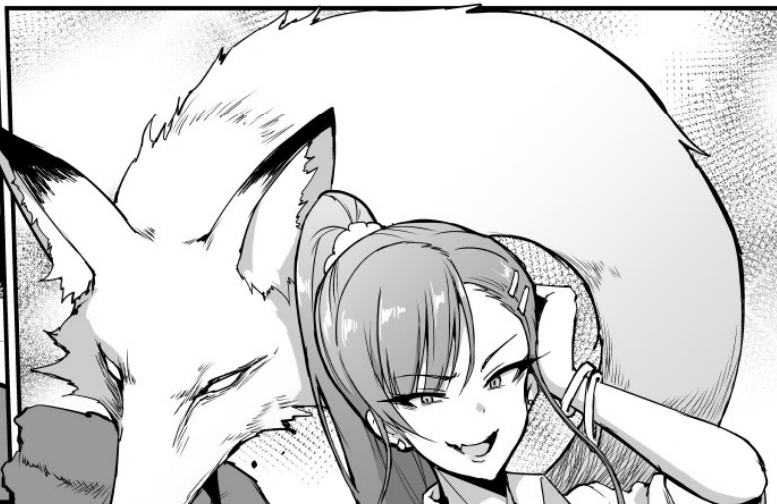
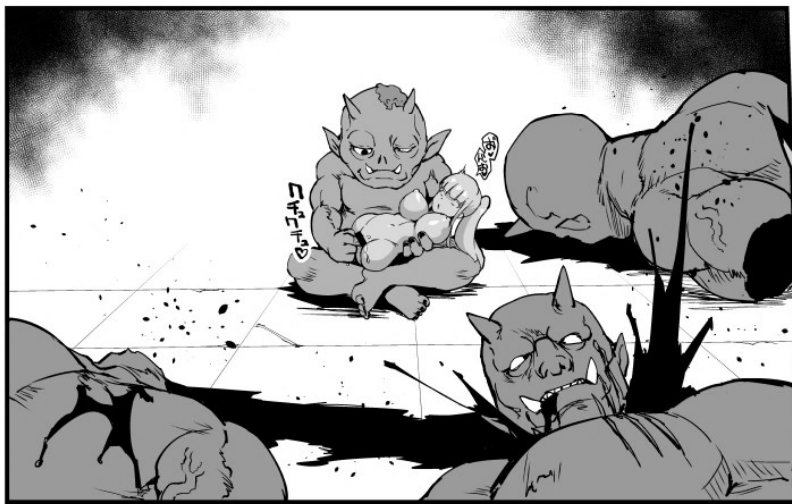








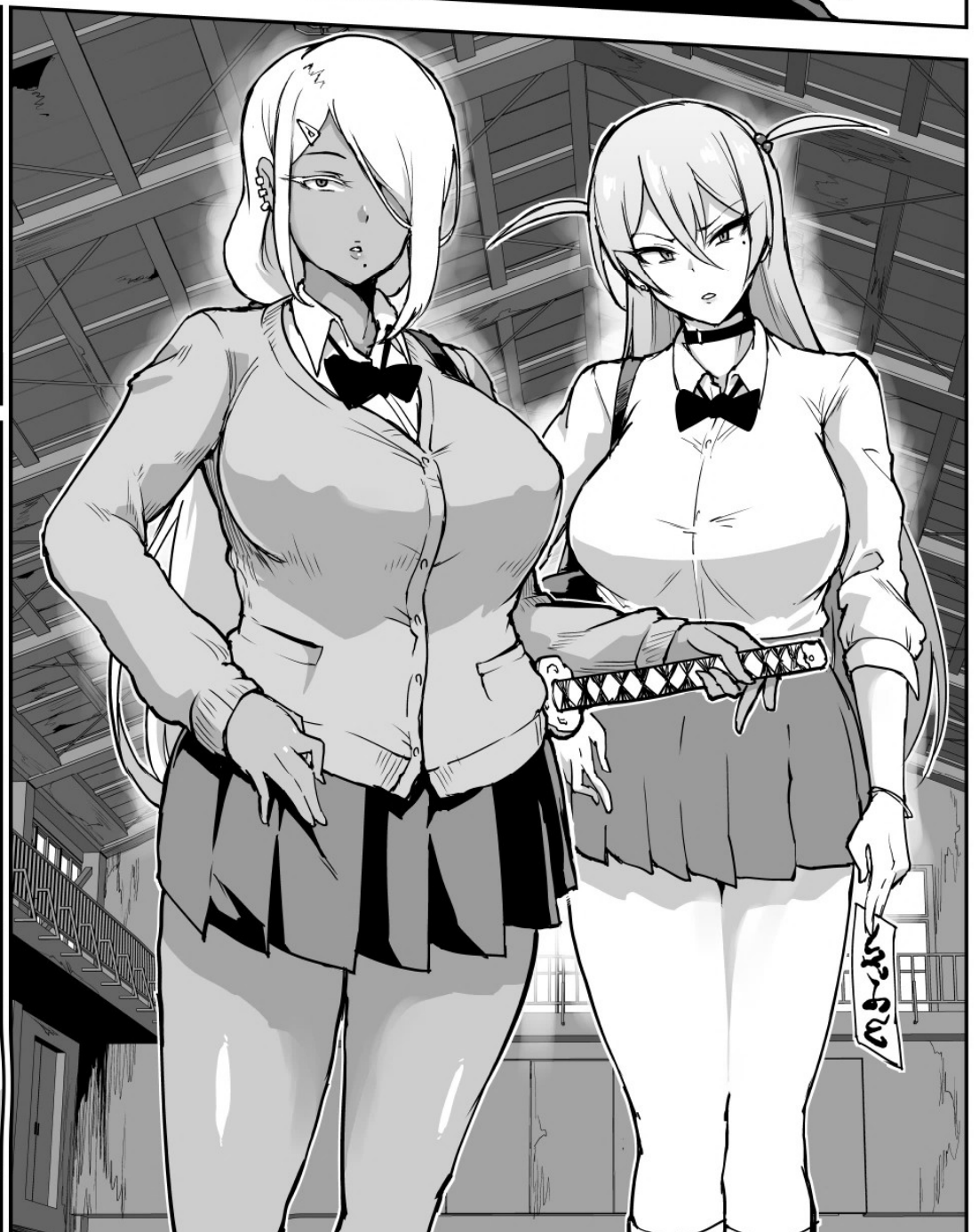
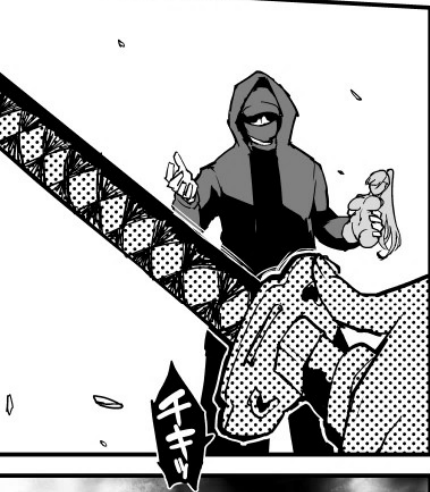


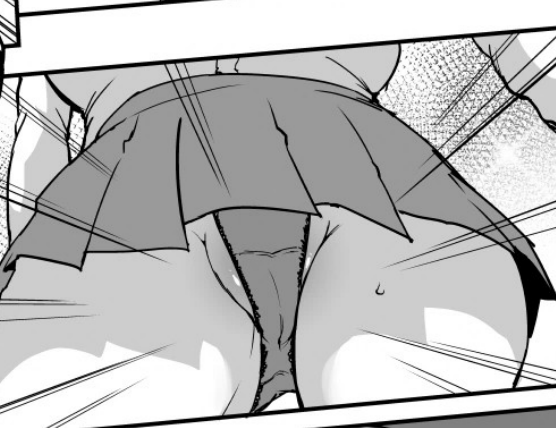








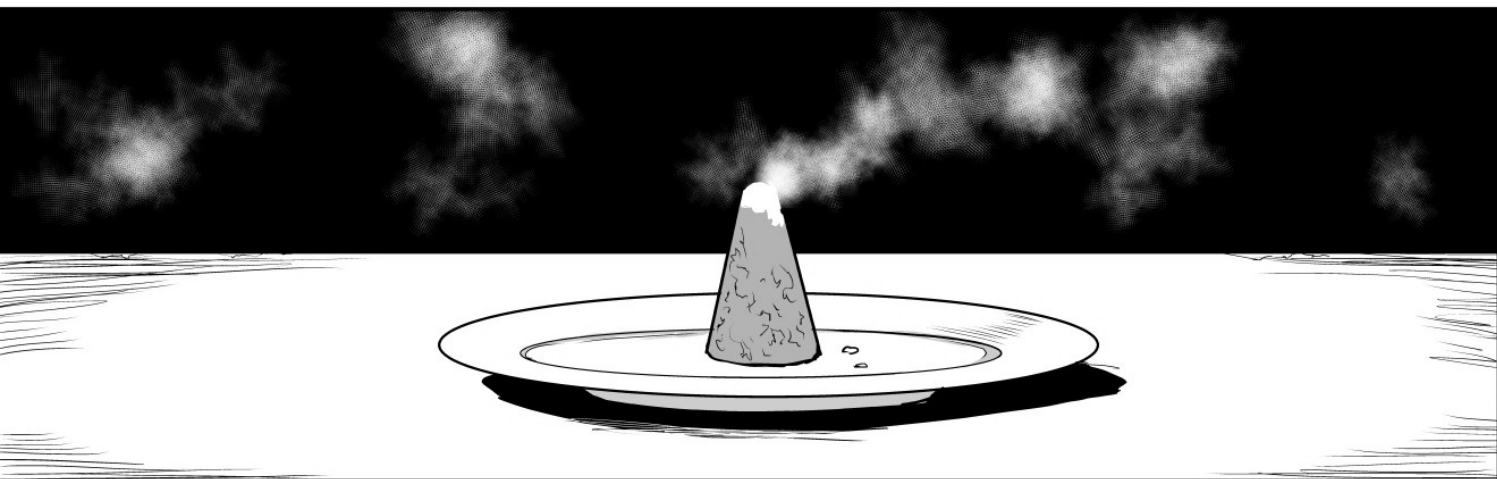




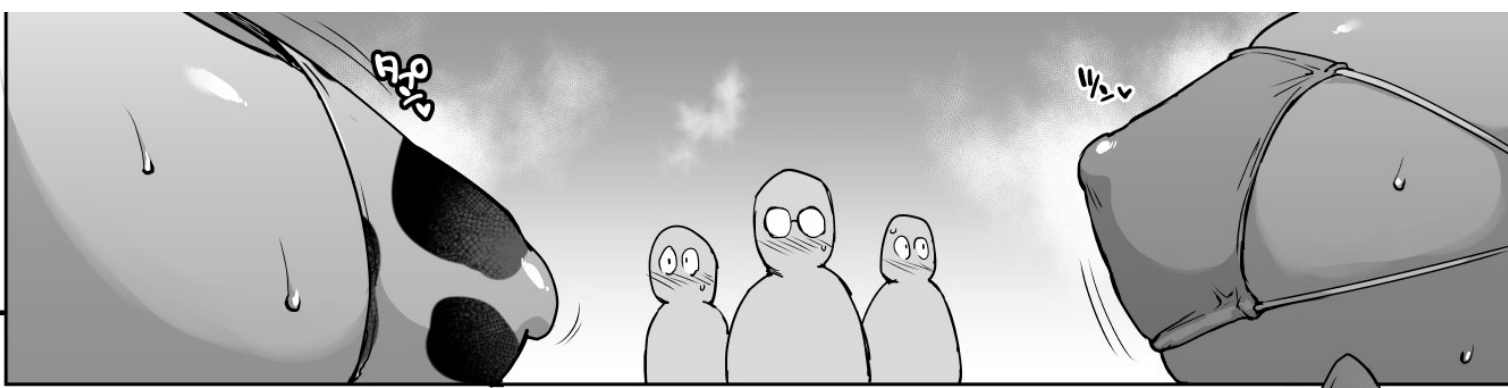








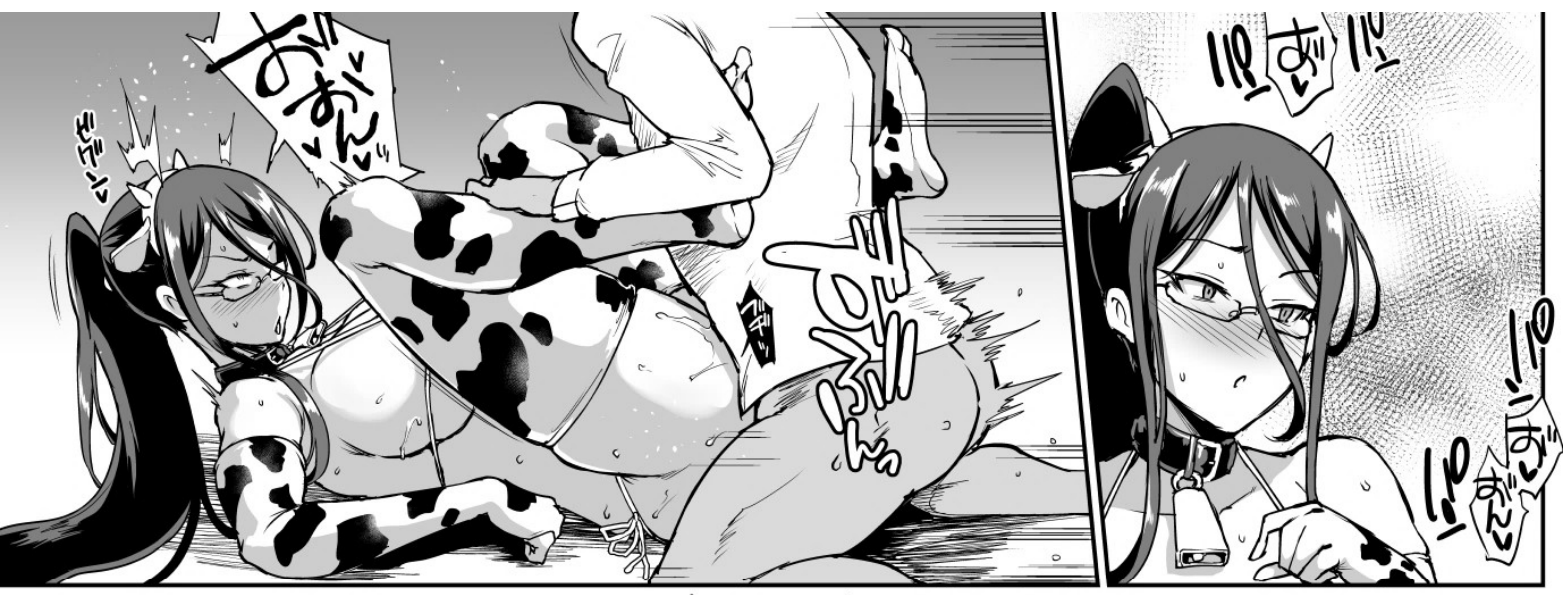


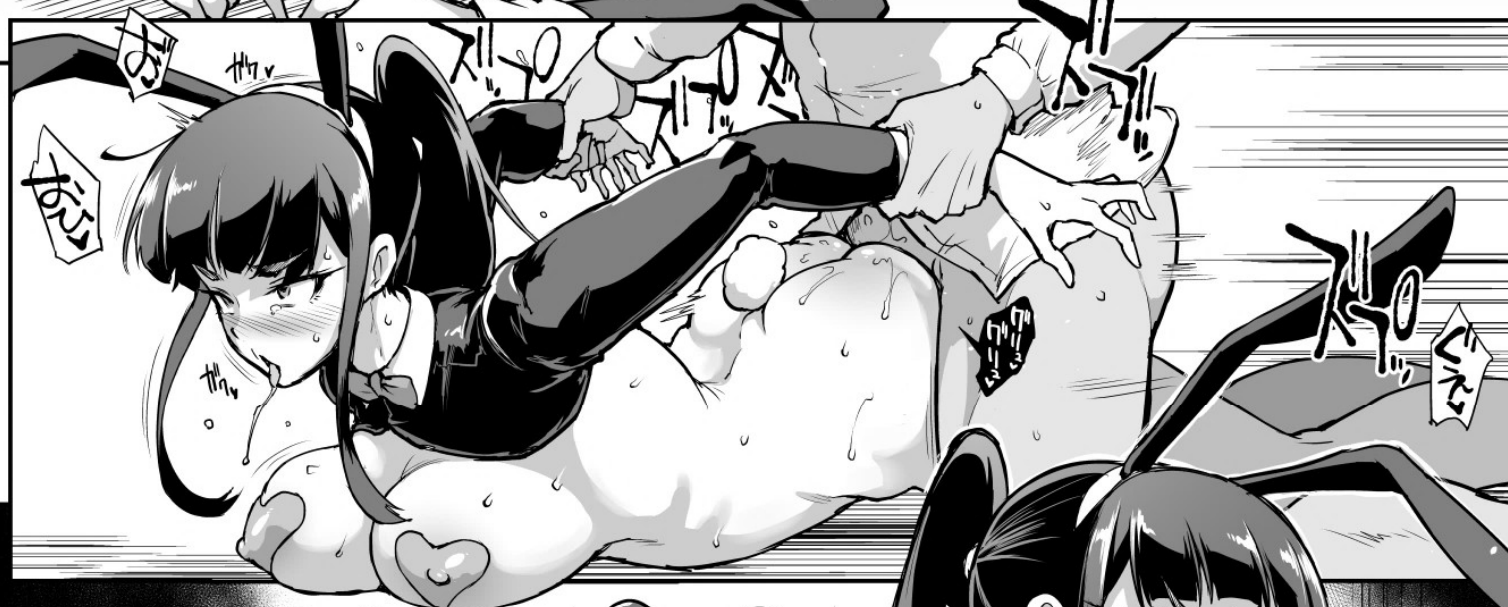


















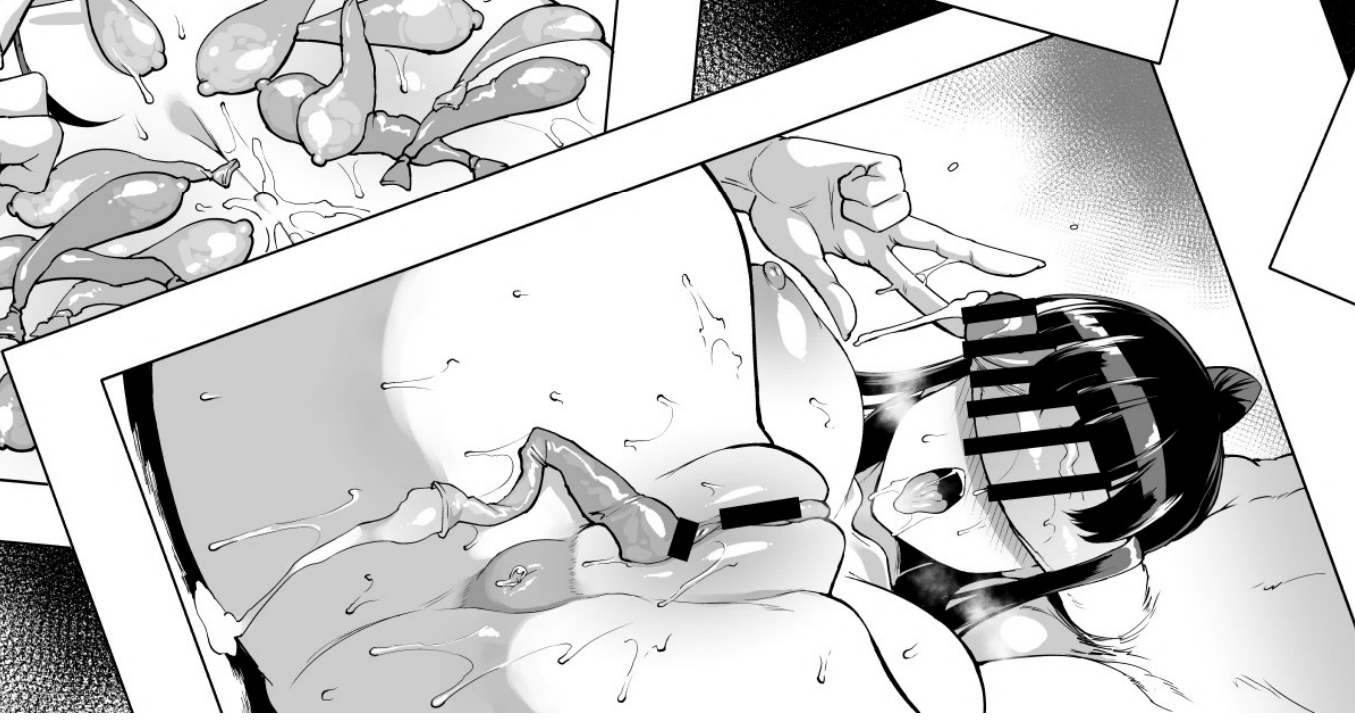






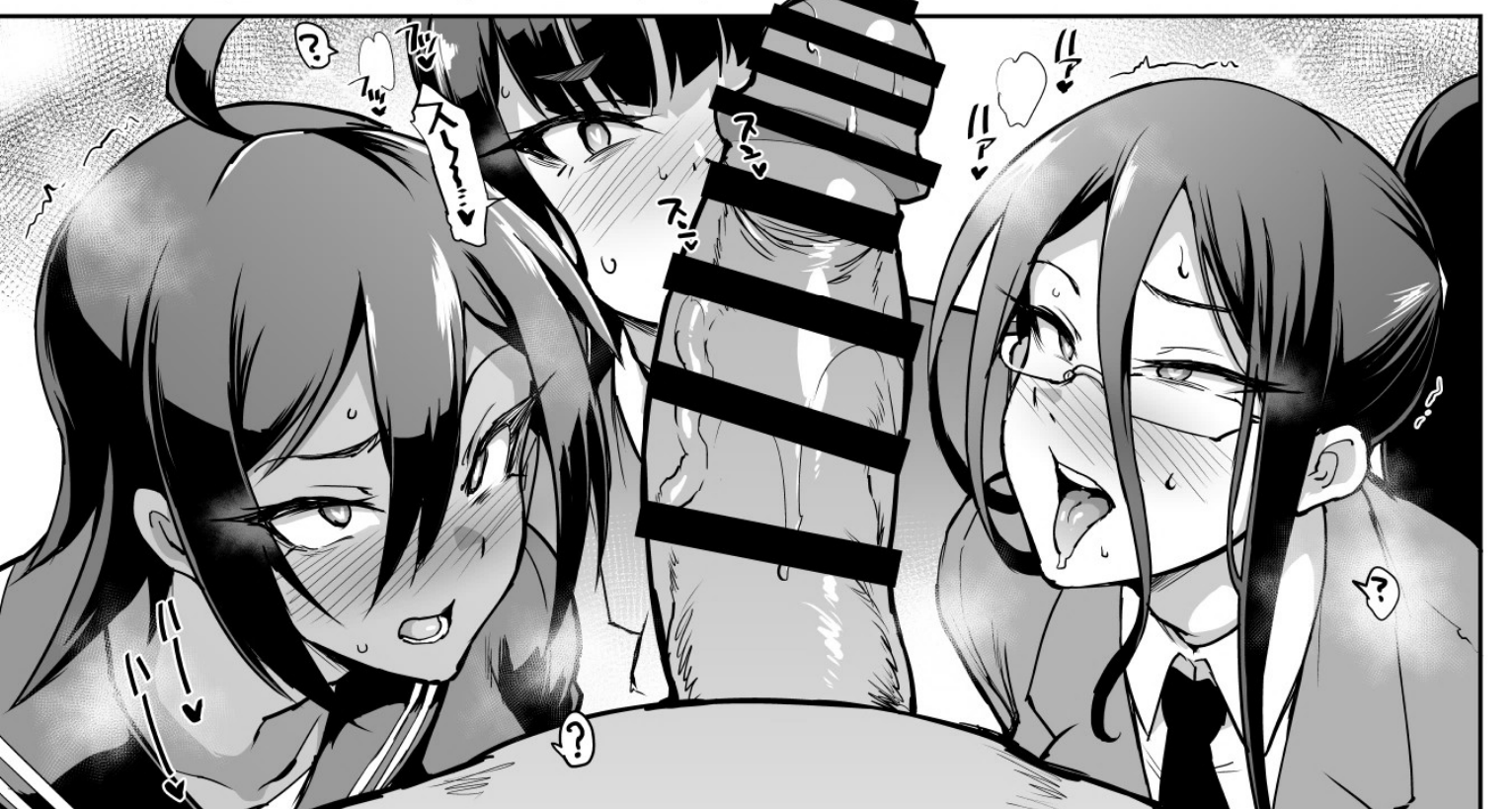


























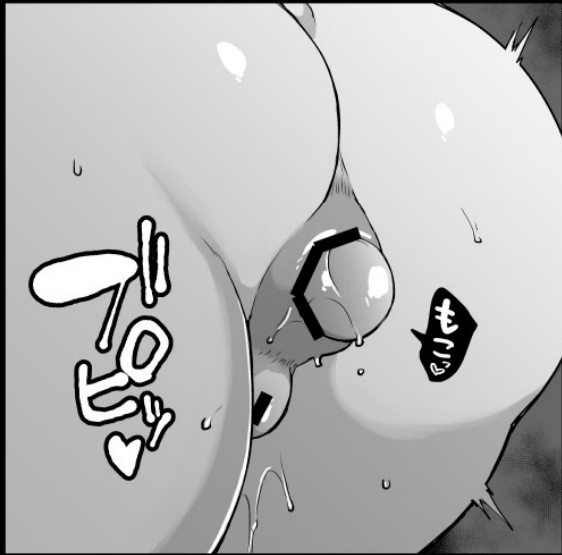


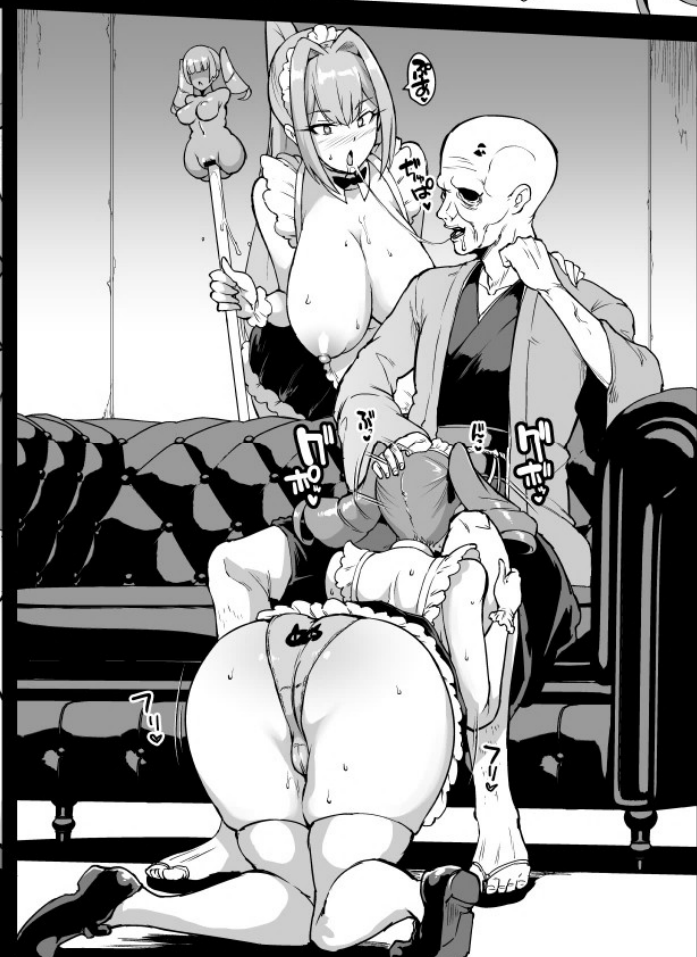
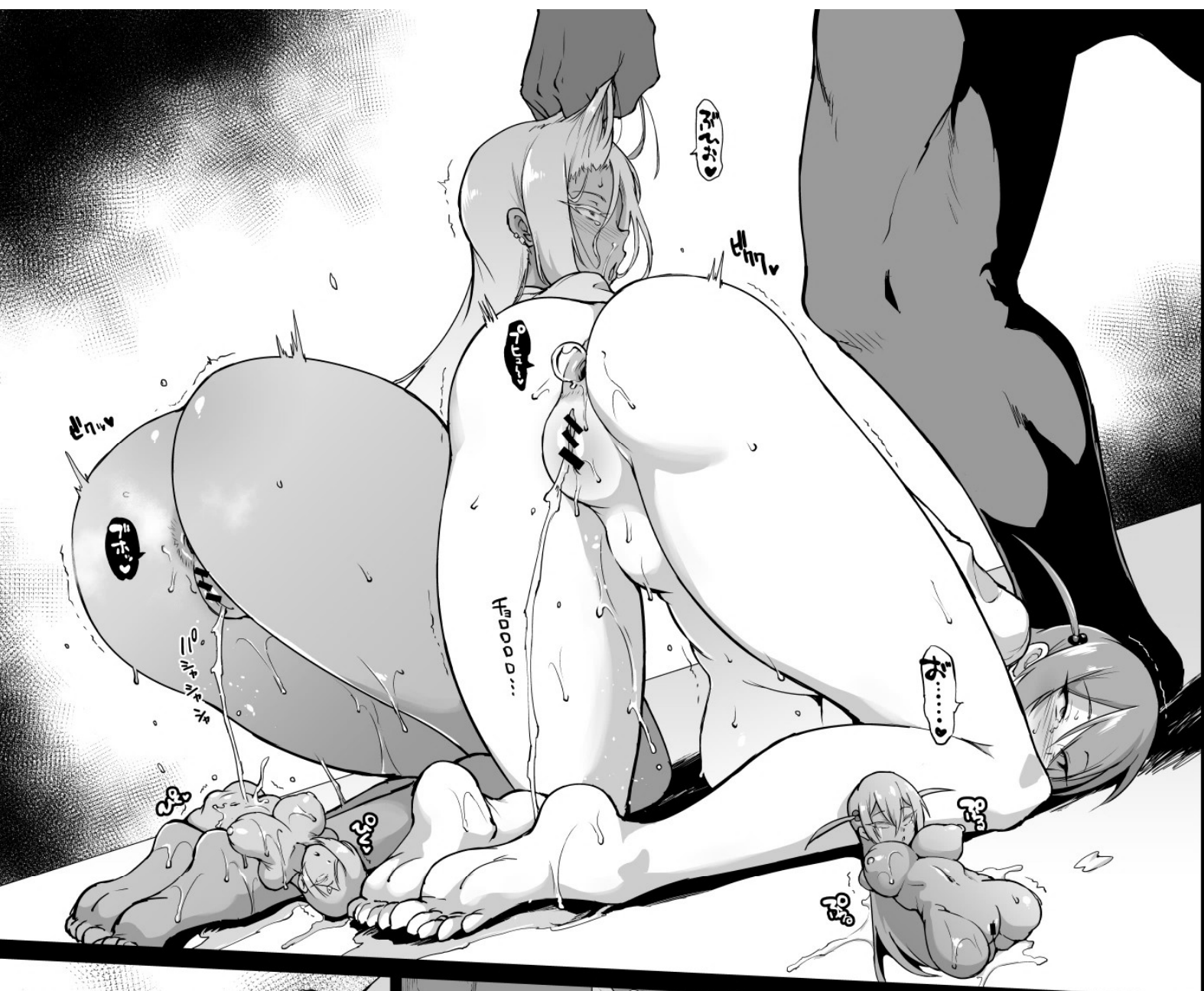






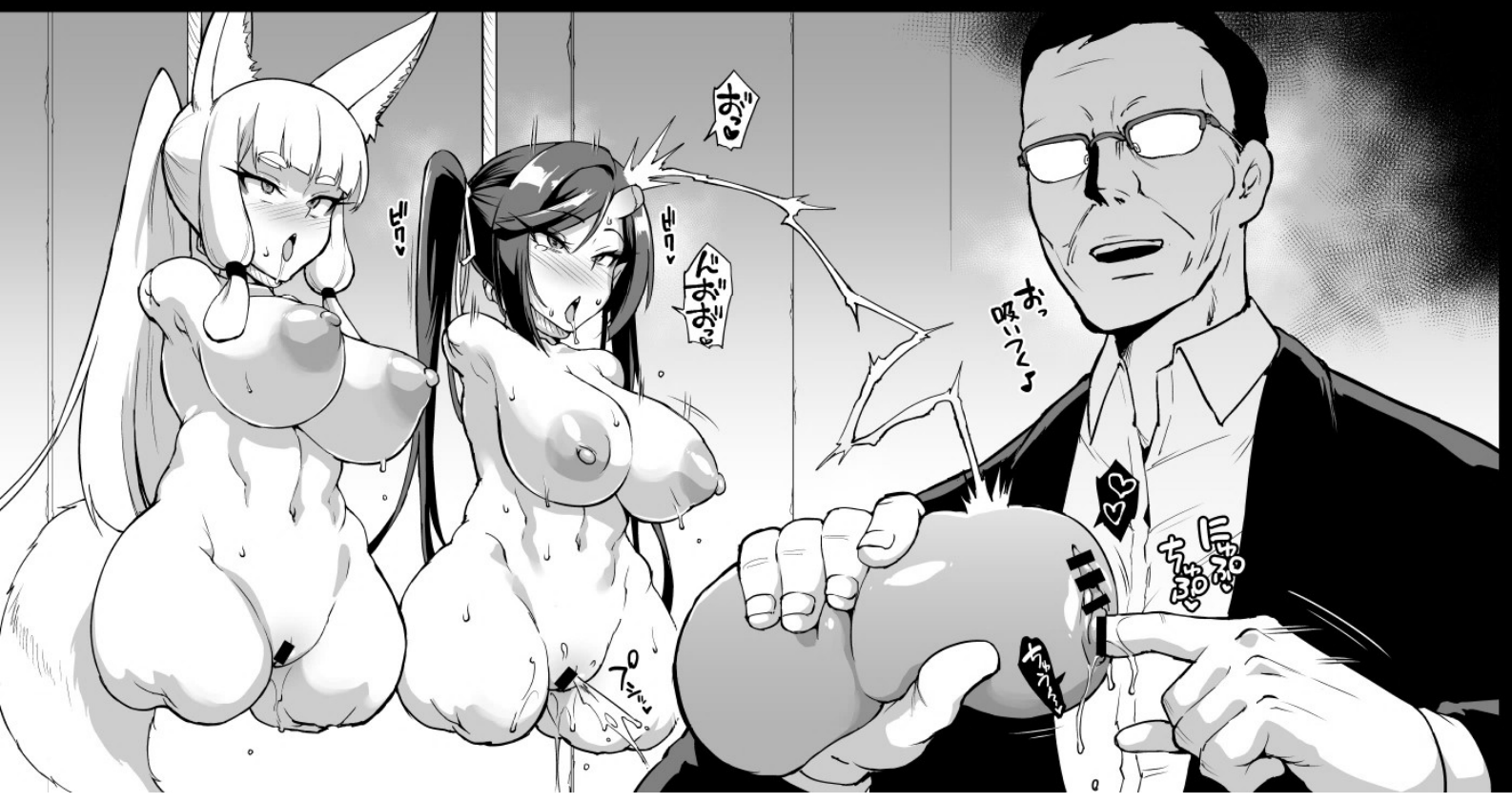


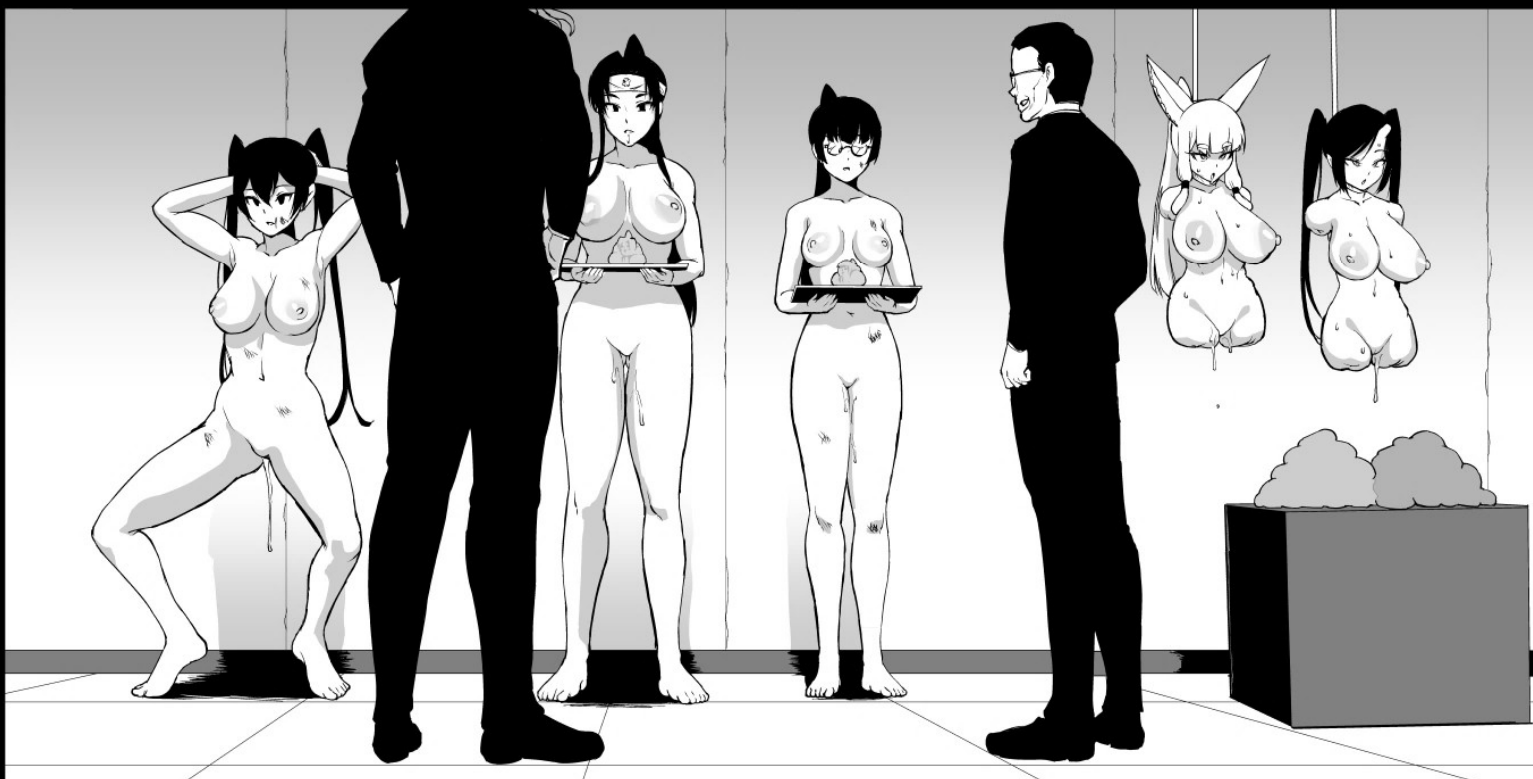
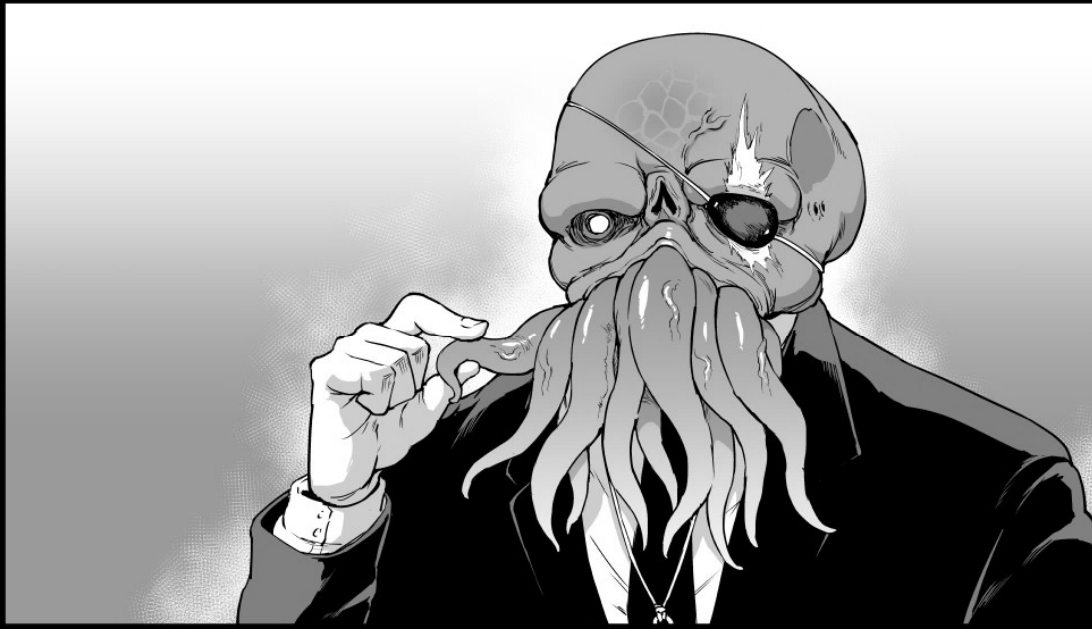




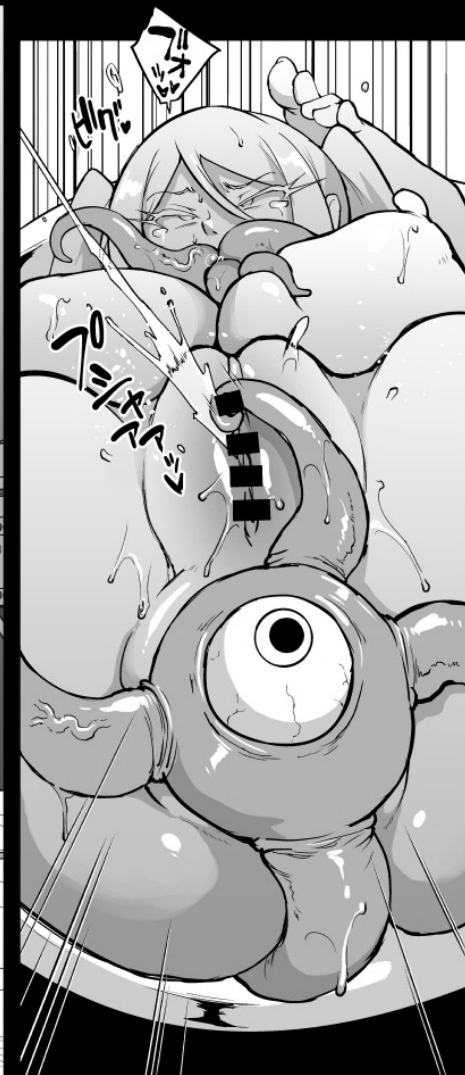
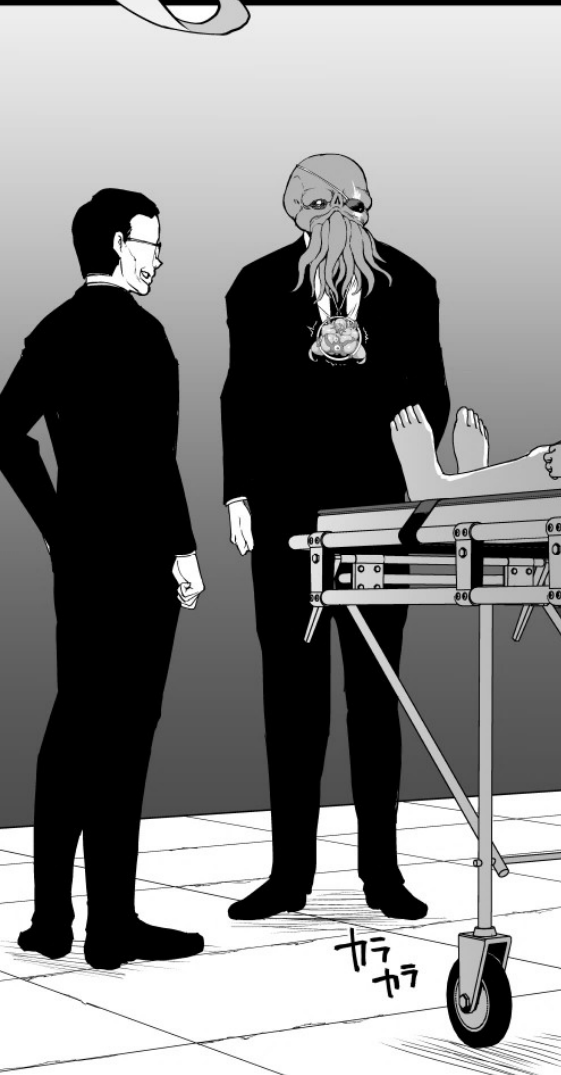
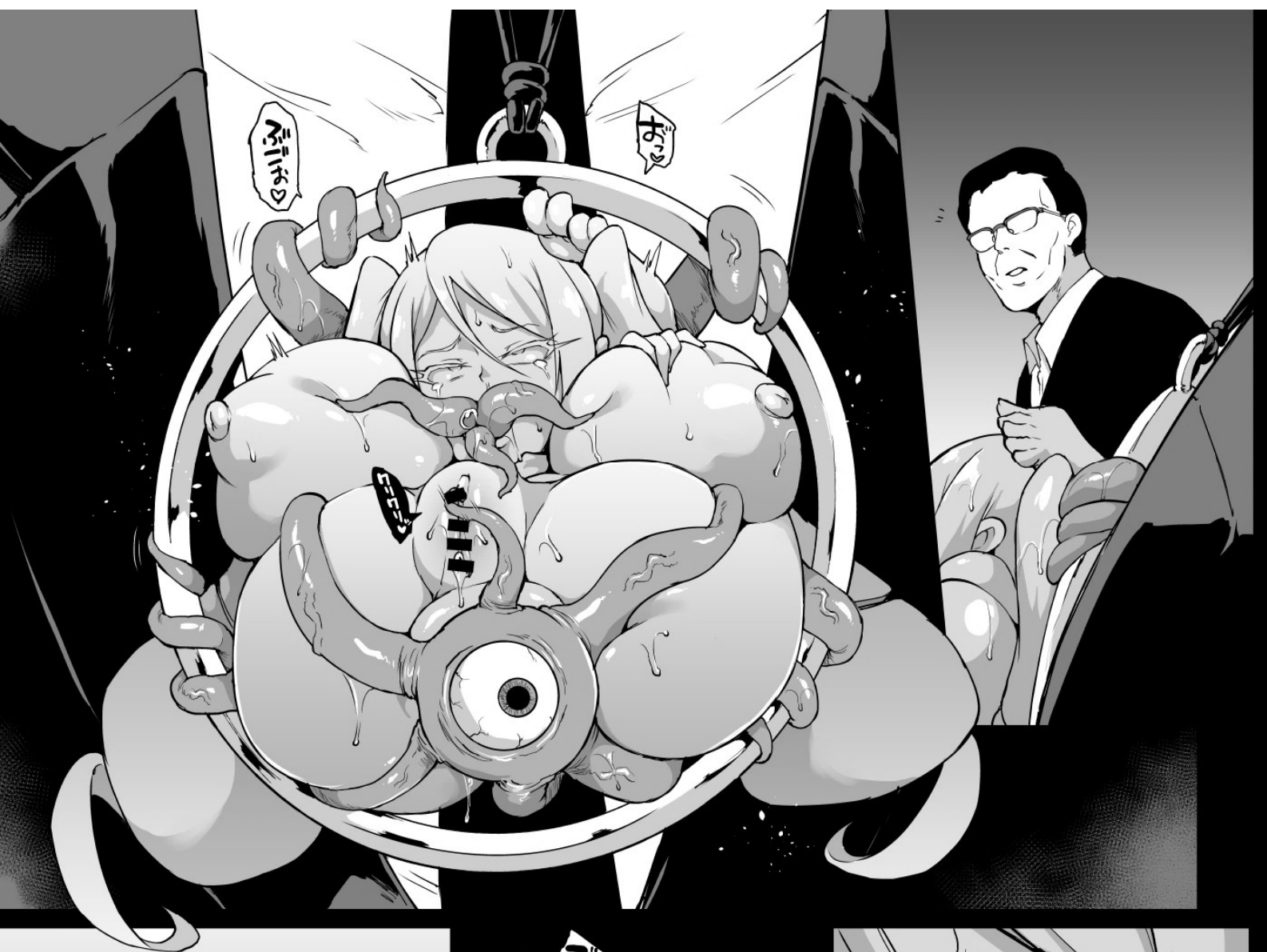




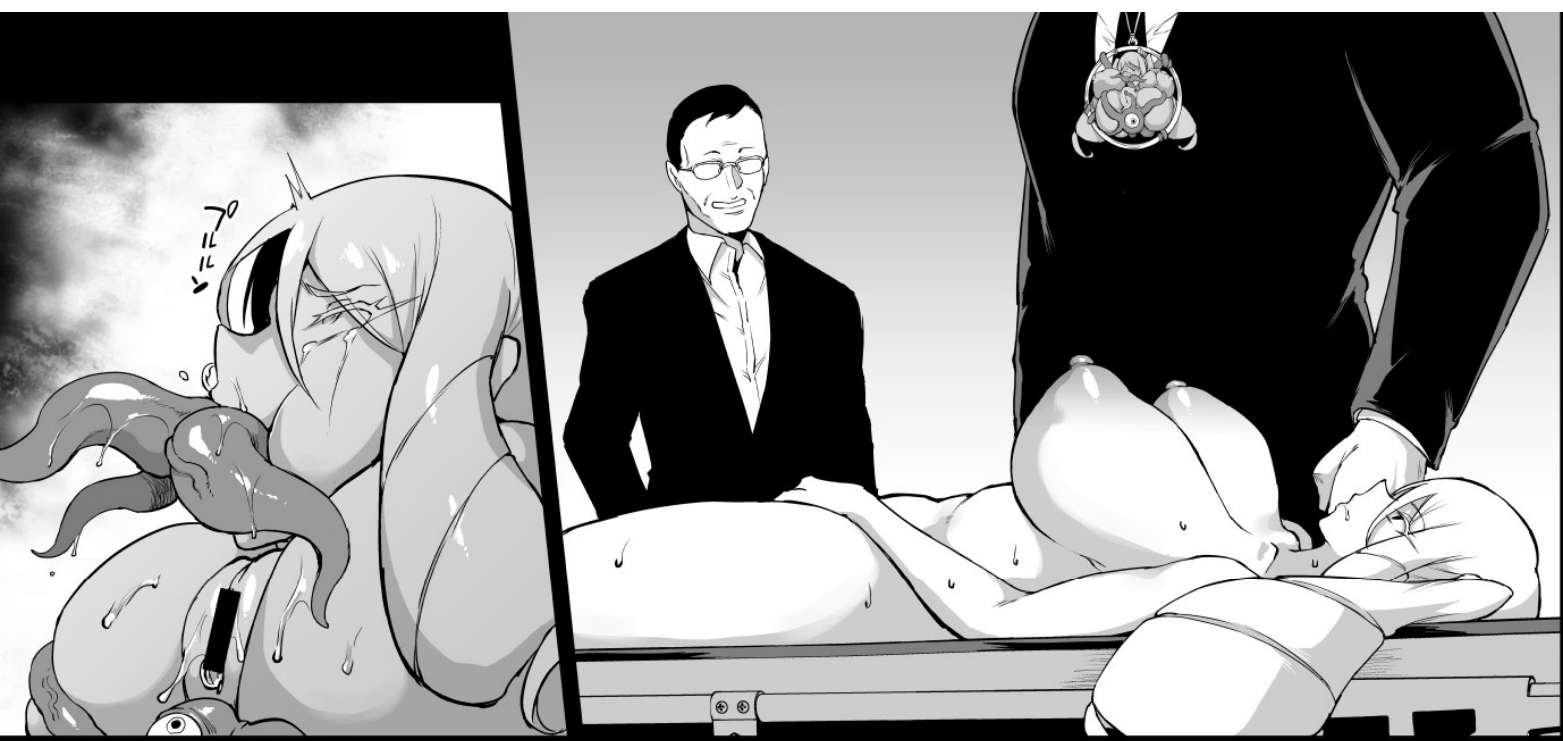








































# 『JK退魔部』の世界 ②

読み飛ばし推奨!

## The World of JK TAIMA-CLUB

※11 すべての退魔適齢期を迎えた女性は子宮で微弱な靈気を生成しているが、妖魔に対抗し得る靈気量を獲得するためには、靈力/妖力の大量曝露により子宮を活性化させる必要がある。新入生は退魔部入部時に高学年の部員からの靈気放射を受け、子宮を励起させる。この術式はプライベートに関わる部分も大きいためスールの関係を結ぶことになる退魔部員も少なくない。子宮を活性化させる術式を使用するには全国退魔検定2級以上の資格が必要である。第2学年後期に取得するのが一般的。

※12 妖魔に襲われることで妖気に曝露し子宮が活性化する事例もある。その場合、より強力な退魔巫女として覚醒することが多い。

※13 退魔巫女が妖魔による妖術や捕食・消化によって女性器を中心に構成された樹脂状物体いわゆる「オナホール」に変化させられる事例がある。普段は退魔巫女に苦渋を舐めさせられている妖魔にとって、退魔巫女由来のオナホールは性欲と自尊心、そして妖気を回復できるトロフィーとなる。

※14 平均的な女性は男性より肉体的な頑健さや運動能力では下回るものの、それは靈気による身体強化で容易に覆る程度の差である。下級の退魔巫女でさえ、男性のアスリートに匹敵する。

※15 退魔巫女の存在は有史以来、人類社会において重要な地位を占めており、女性優位社会が形成されている。長い間、女性優遇政策が施行されてきた結果、人口の女男比は7：3となっている。一時期は男性の比率はさらに低かったが、女男比の不均衡から人口減少が危ぶまれたことと、男性の社会参画の気運の高まりにより男児を出産した世帯への優遇政策が取られた結果、現在の比率に落ち着いた。

※16 国会議員に占める女性の割合は現在、95.2%となっている。

※17 現代では科学技術、銃火器の発達により、組織化された戦闘部隊であれば靈気を用いなくても高位の妖魔でさえ殺傷が可能となっており、退魔部の意義は失われて久しい。しかし、女性の地位や退魔の伝統の維持を目的とする保守党議員や教育委員会、■兆円規模の退魔巫女市場関連各社、妖魔や反社会組織と結託した裏の退魔巫女市場を牛耳る男性権力者(多くは妖術師)などの思惑が合致し、退魔部はいまも花形の部活動として退魔巫女たちの青春を彩り続けている。

以降の記録は別の世界線における退魔部の活動報告である。





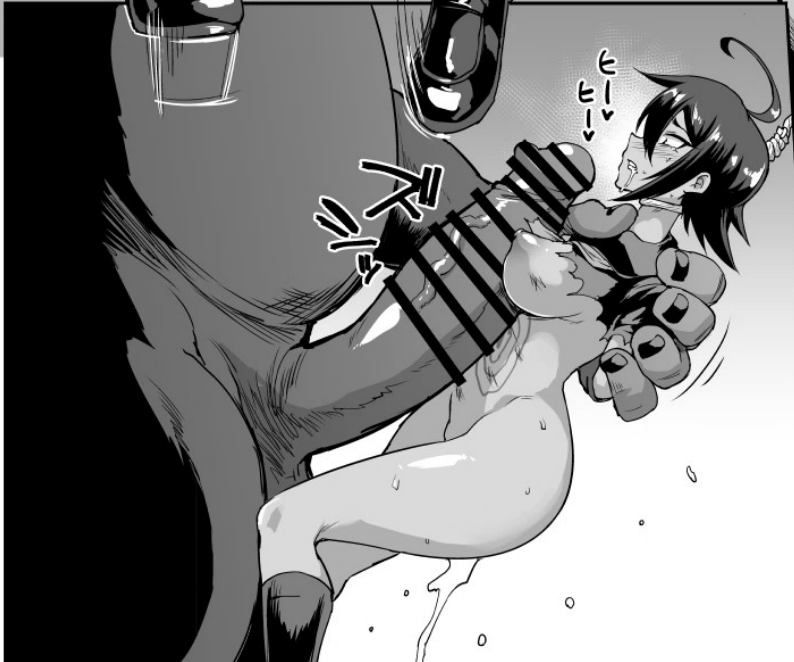






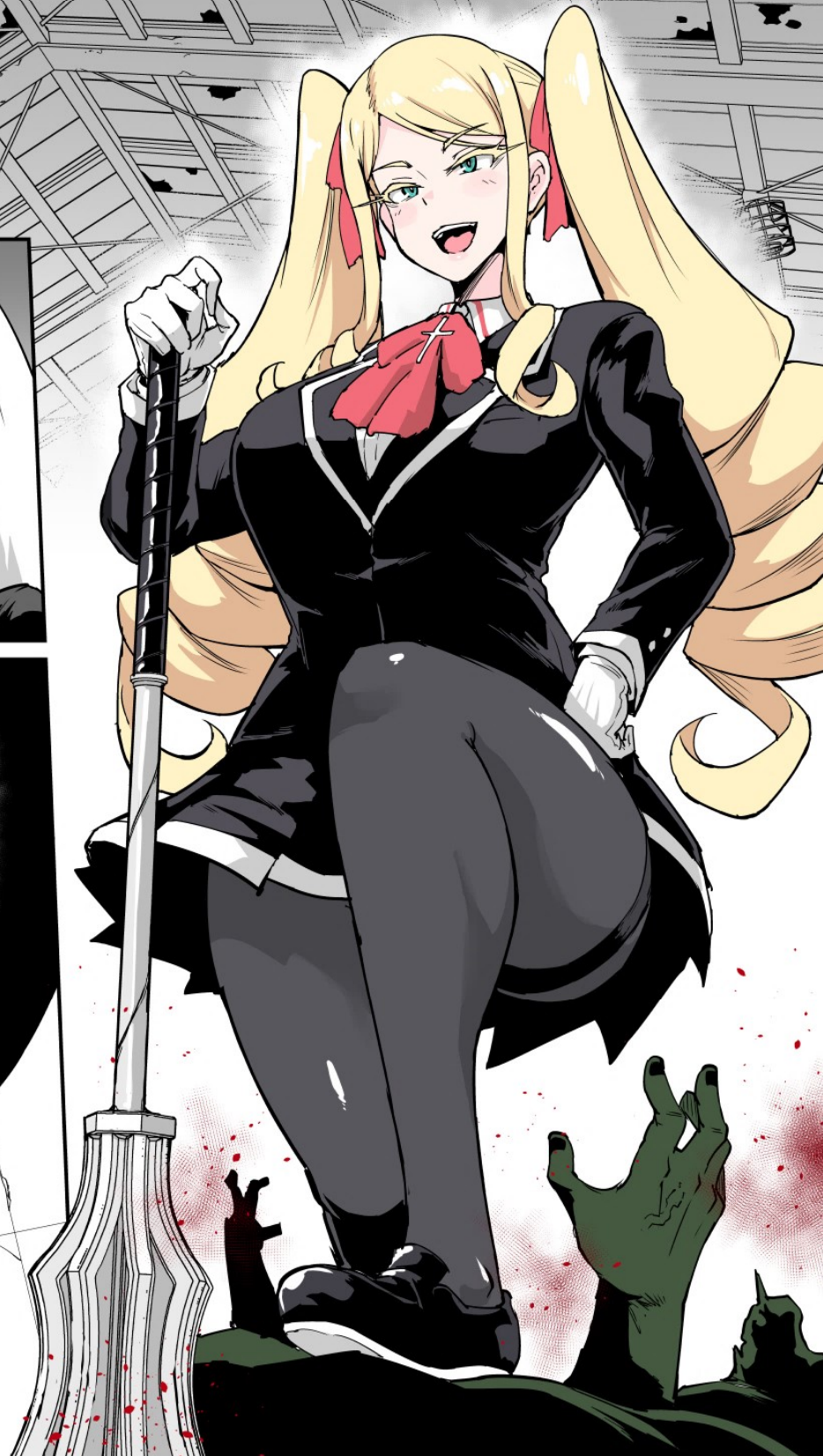
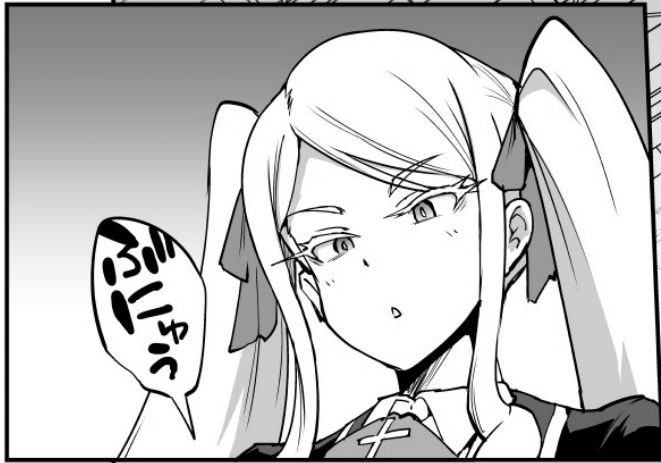


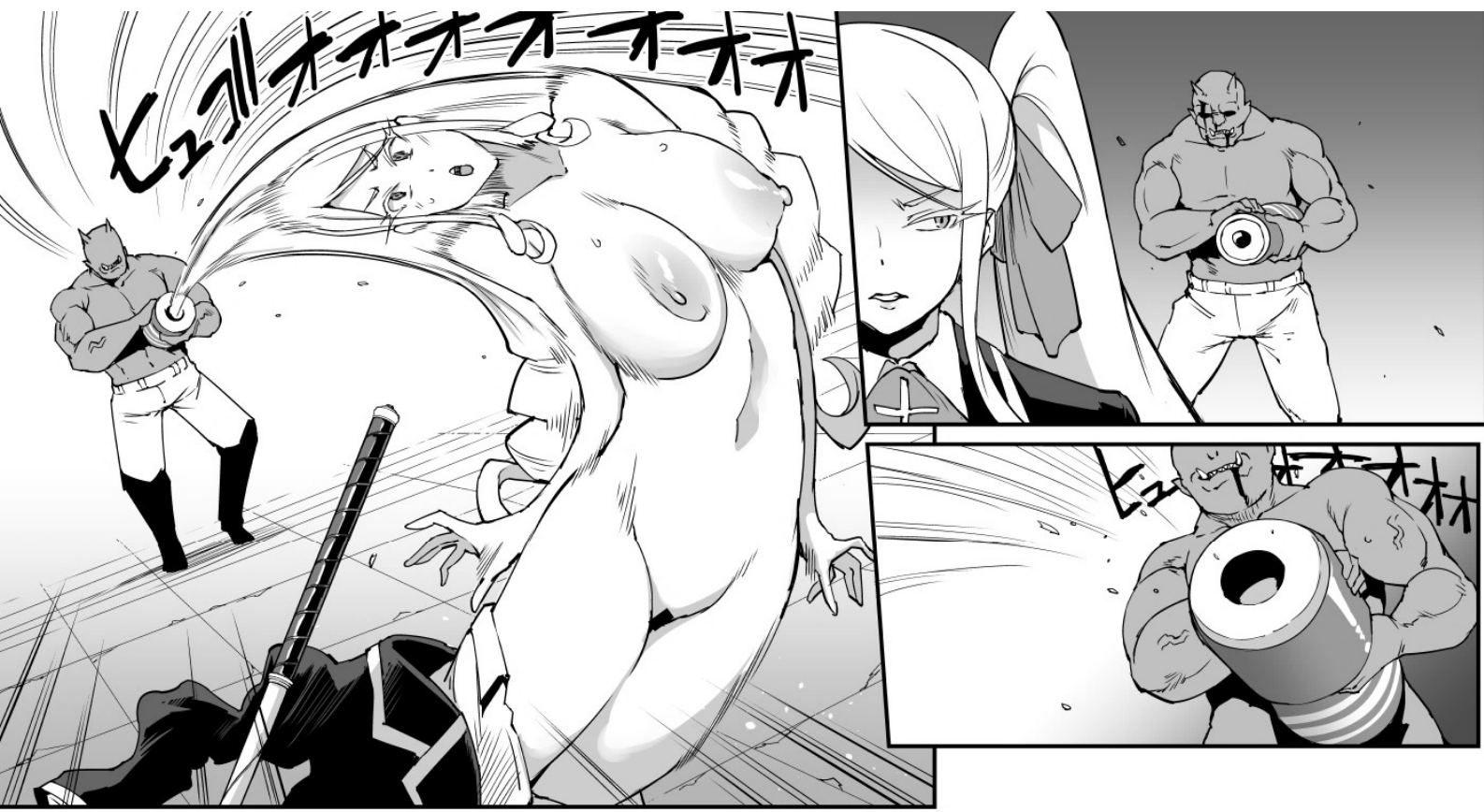










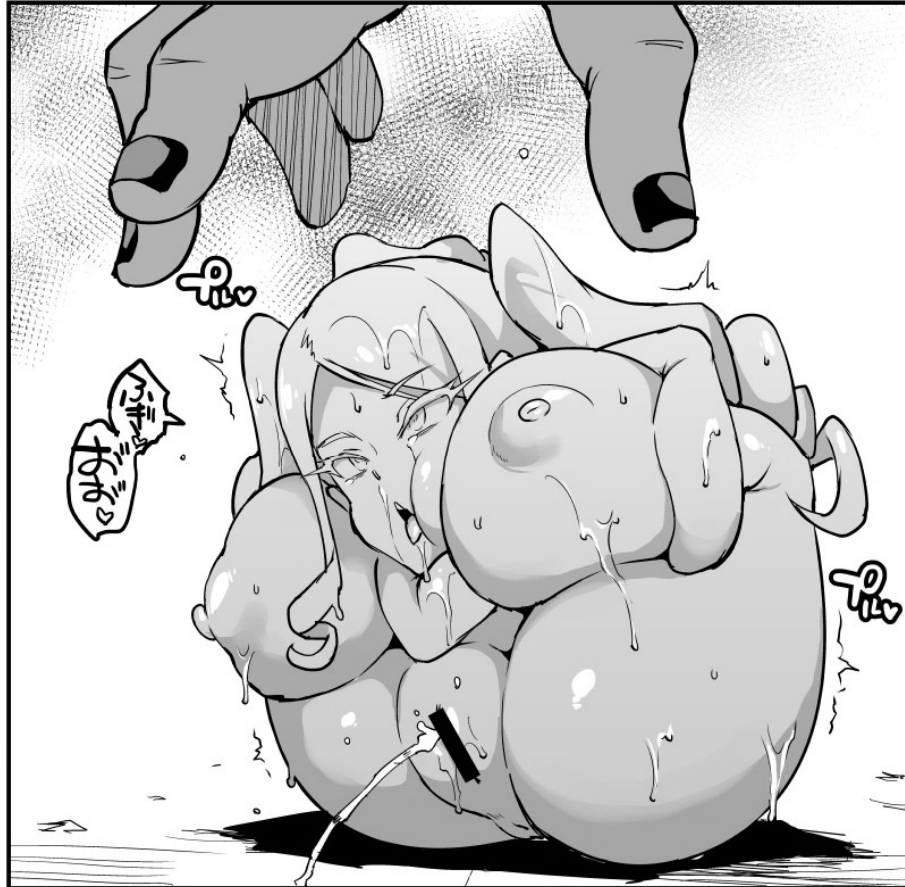
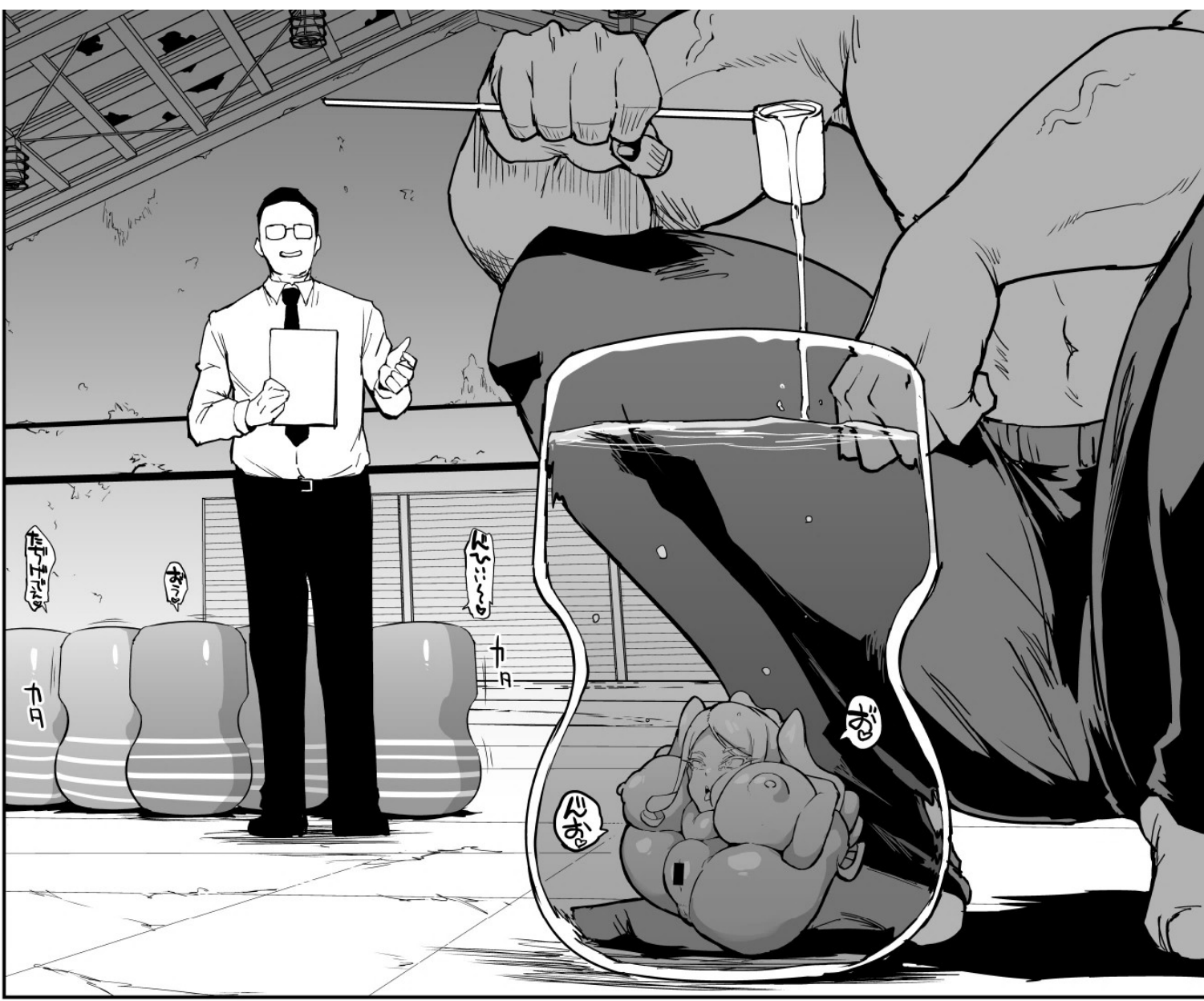


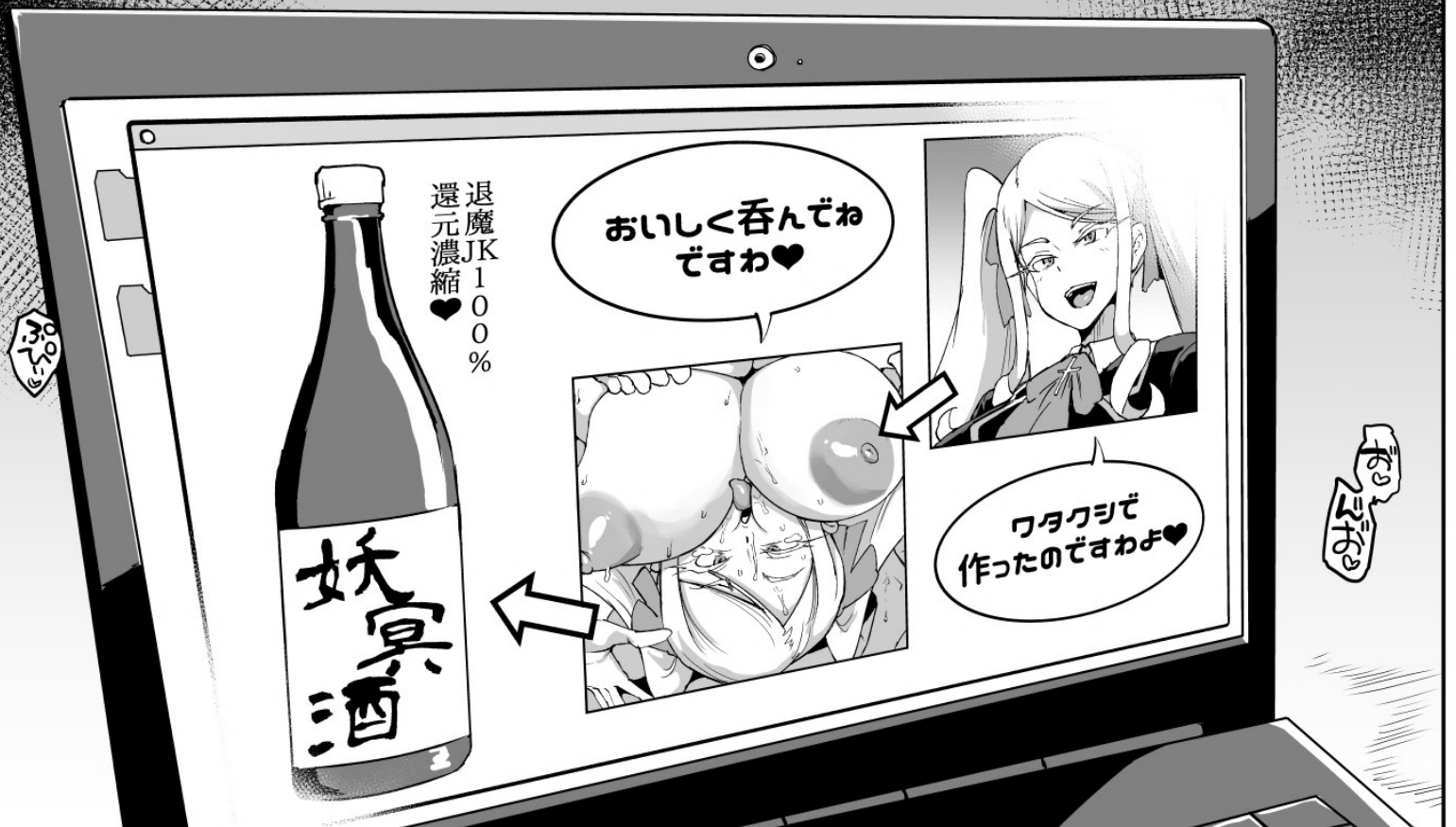




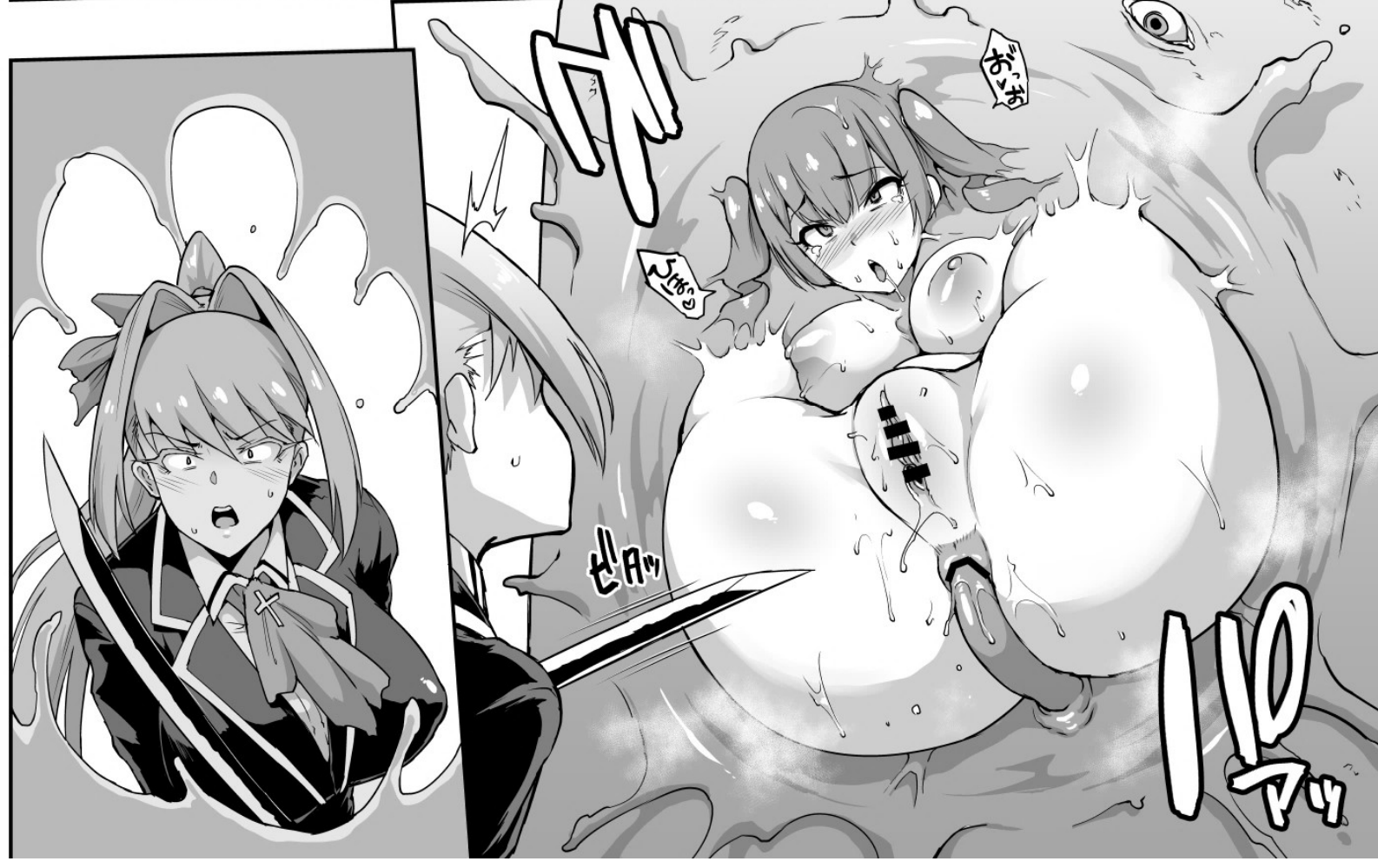
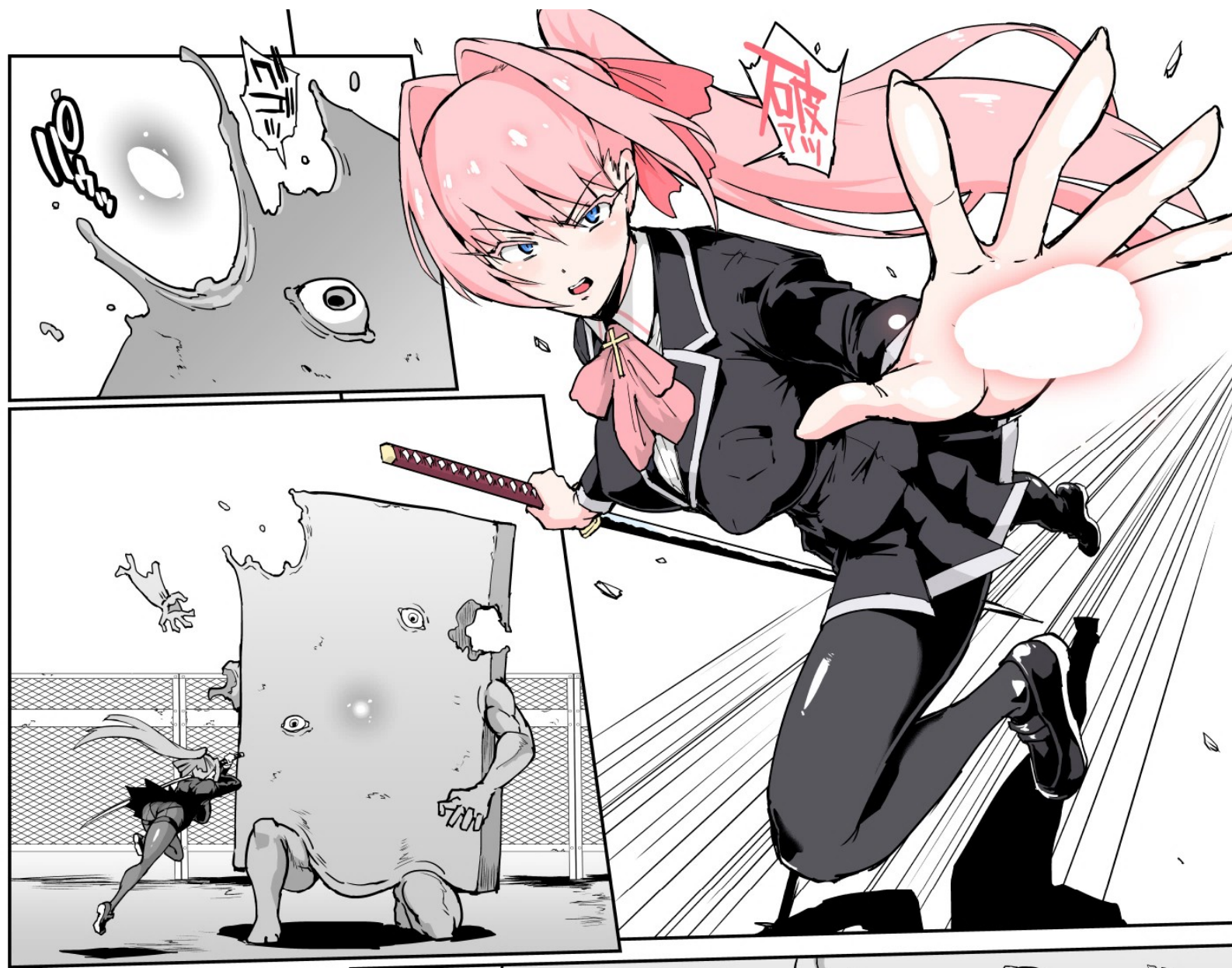










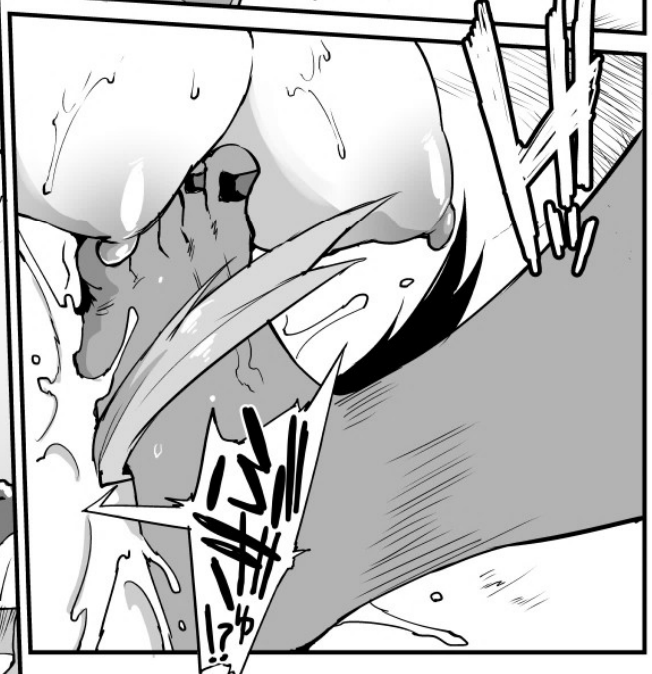
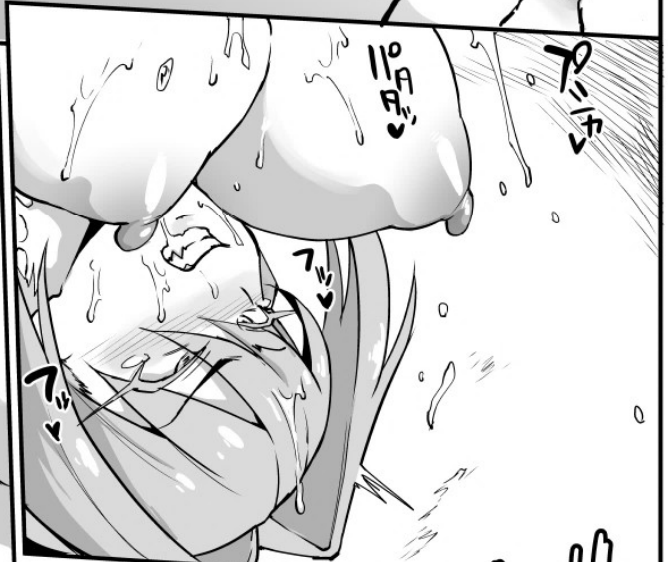




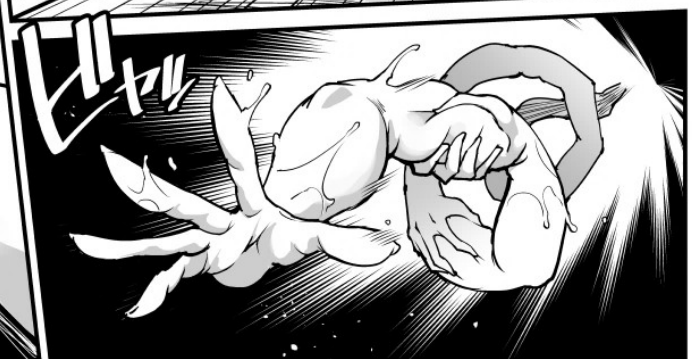
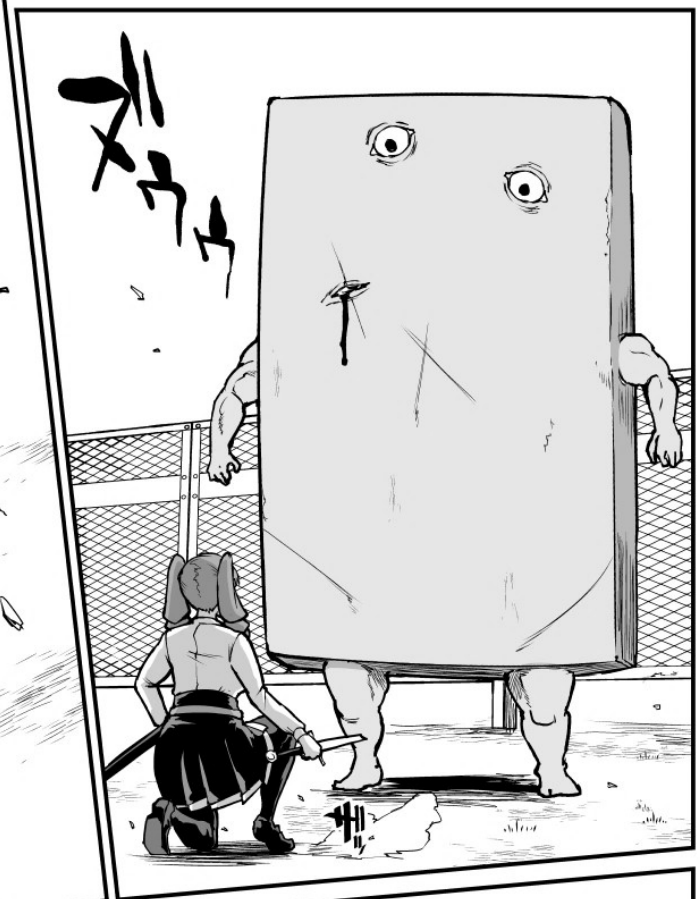
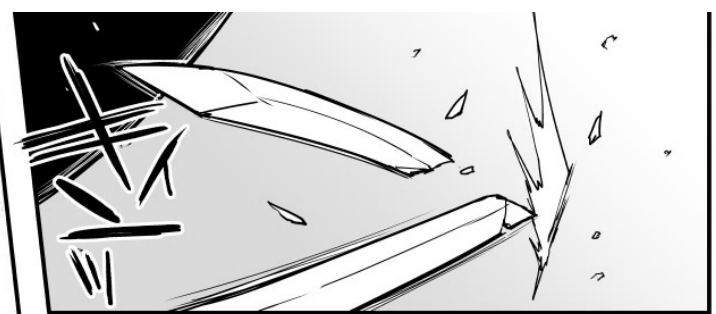
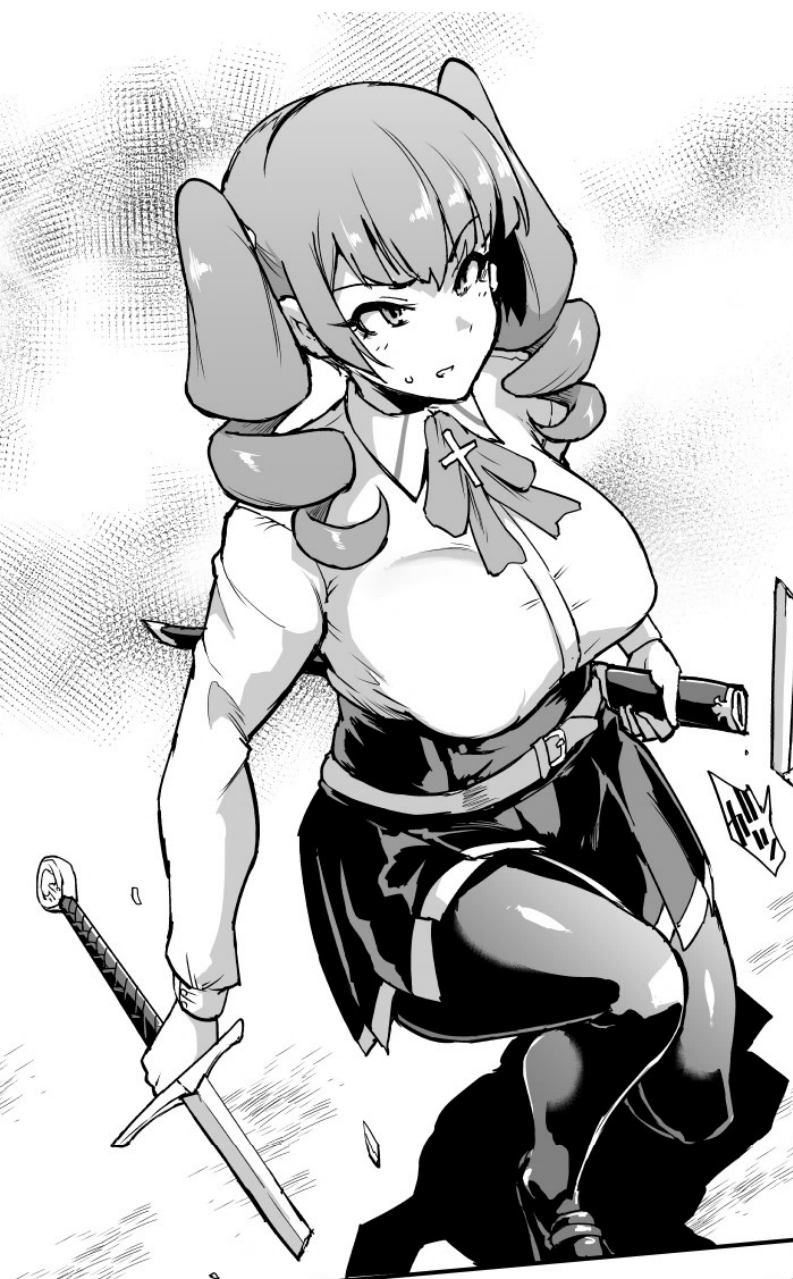




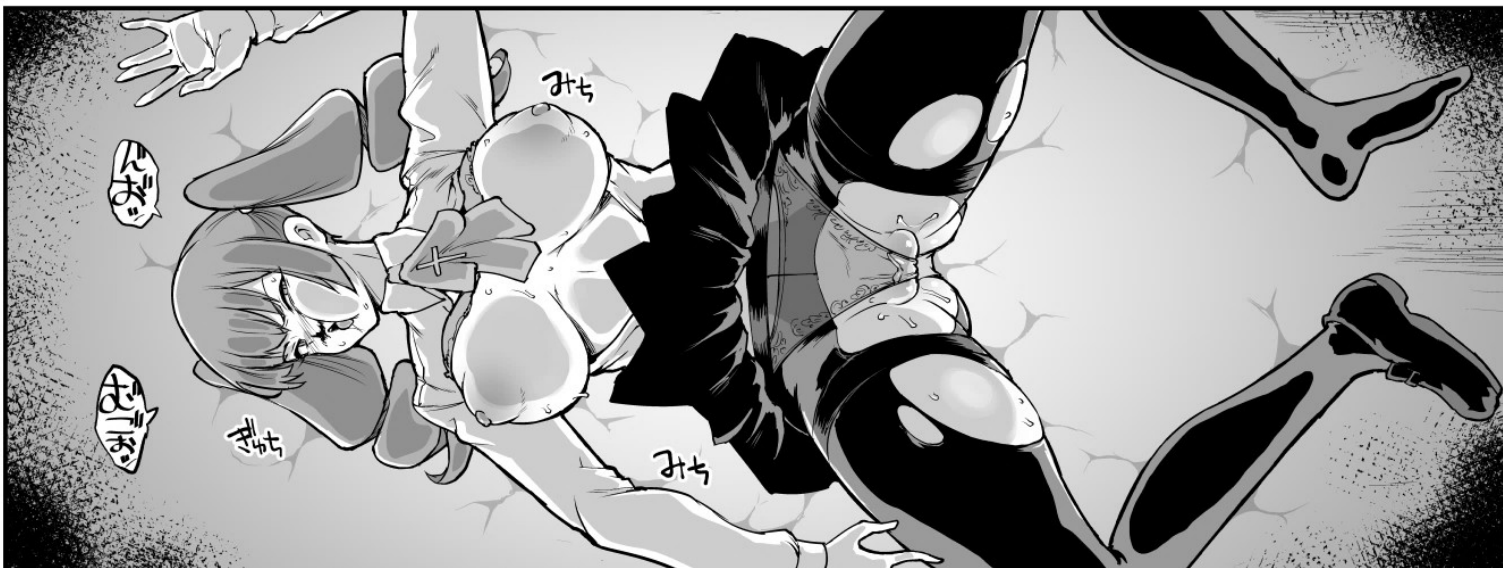
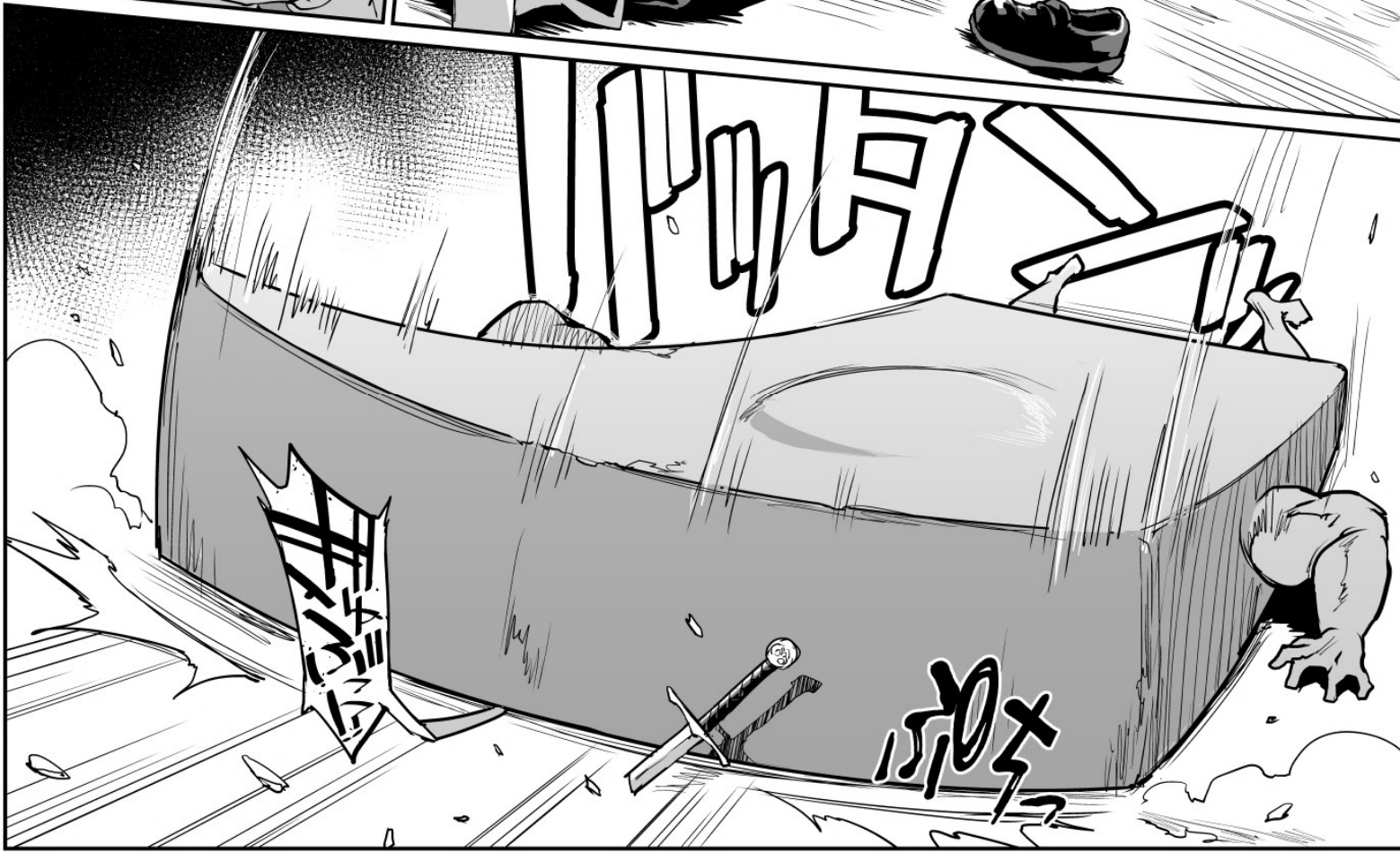
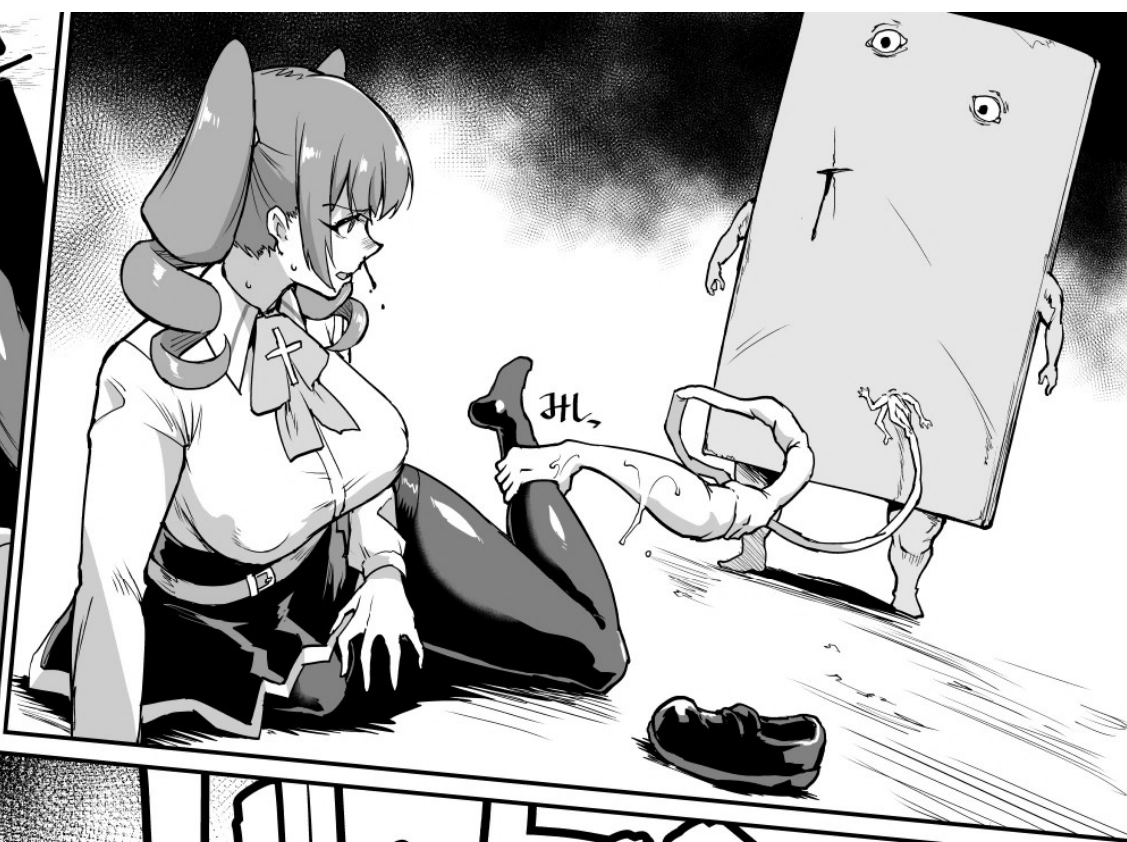




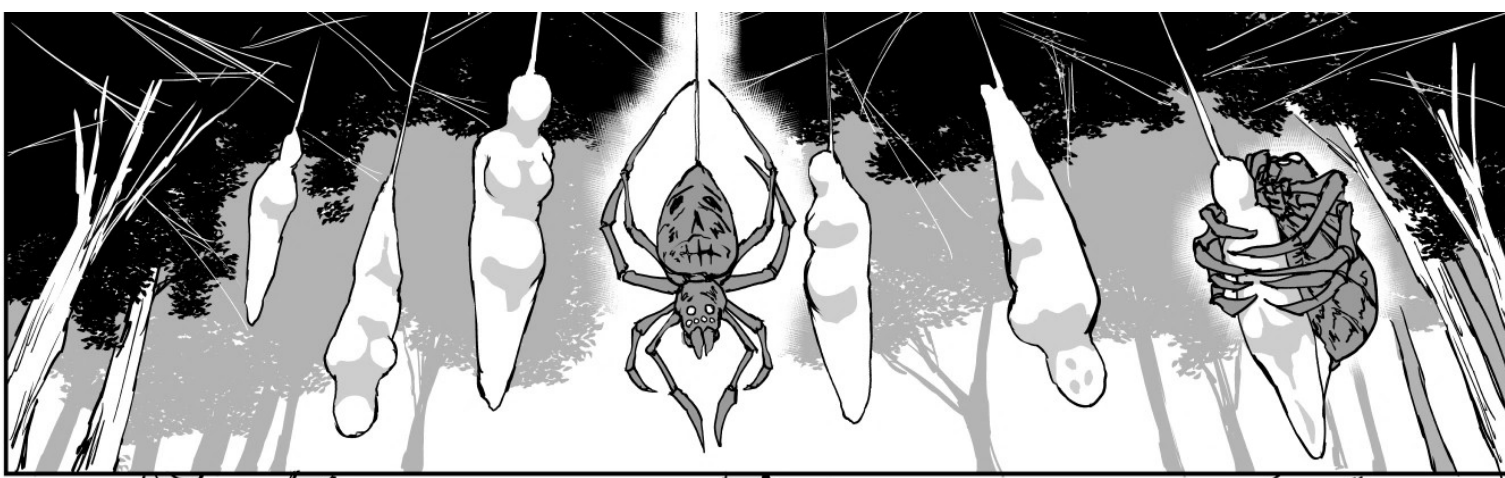








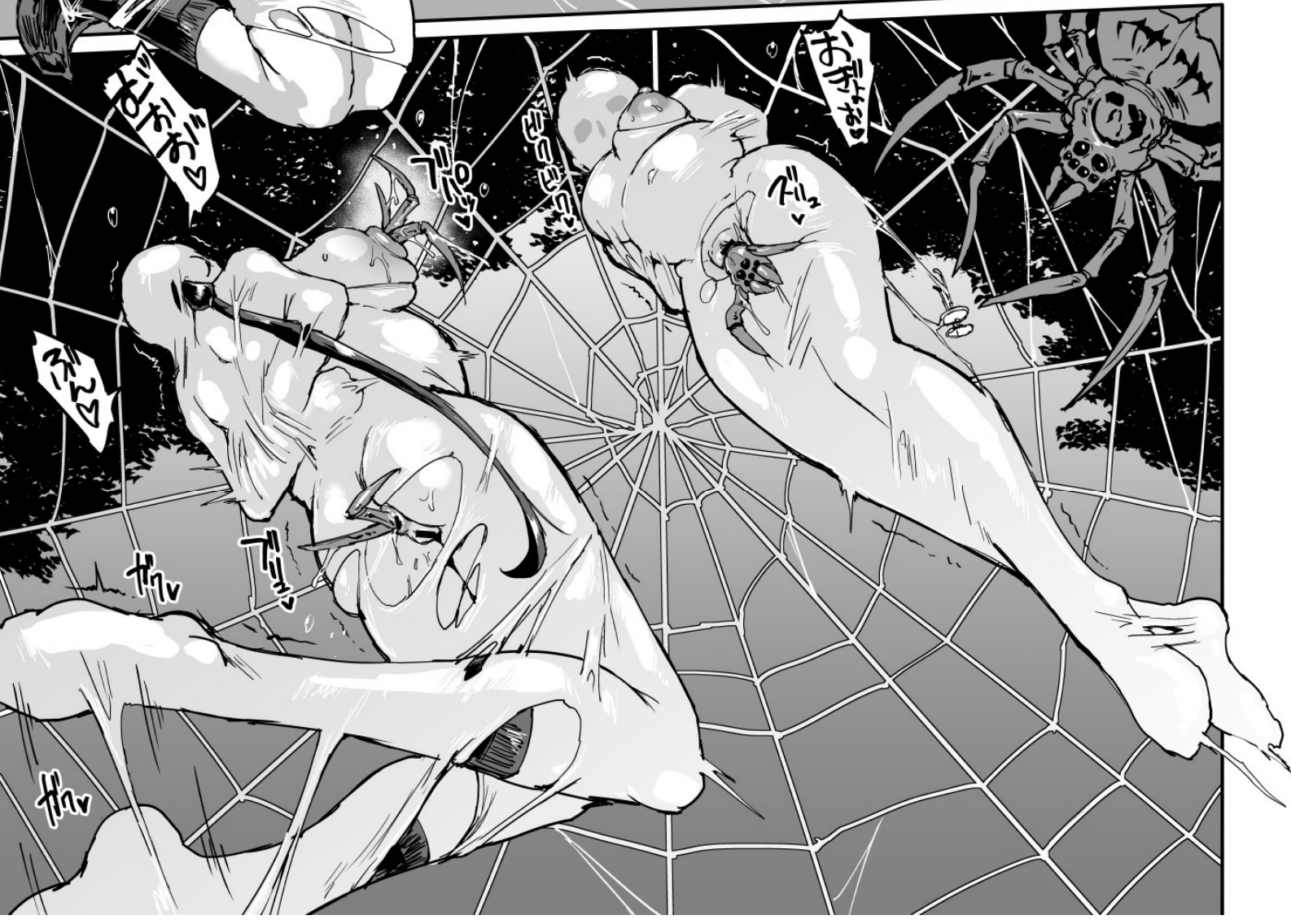
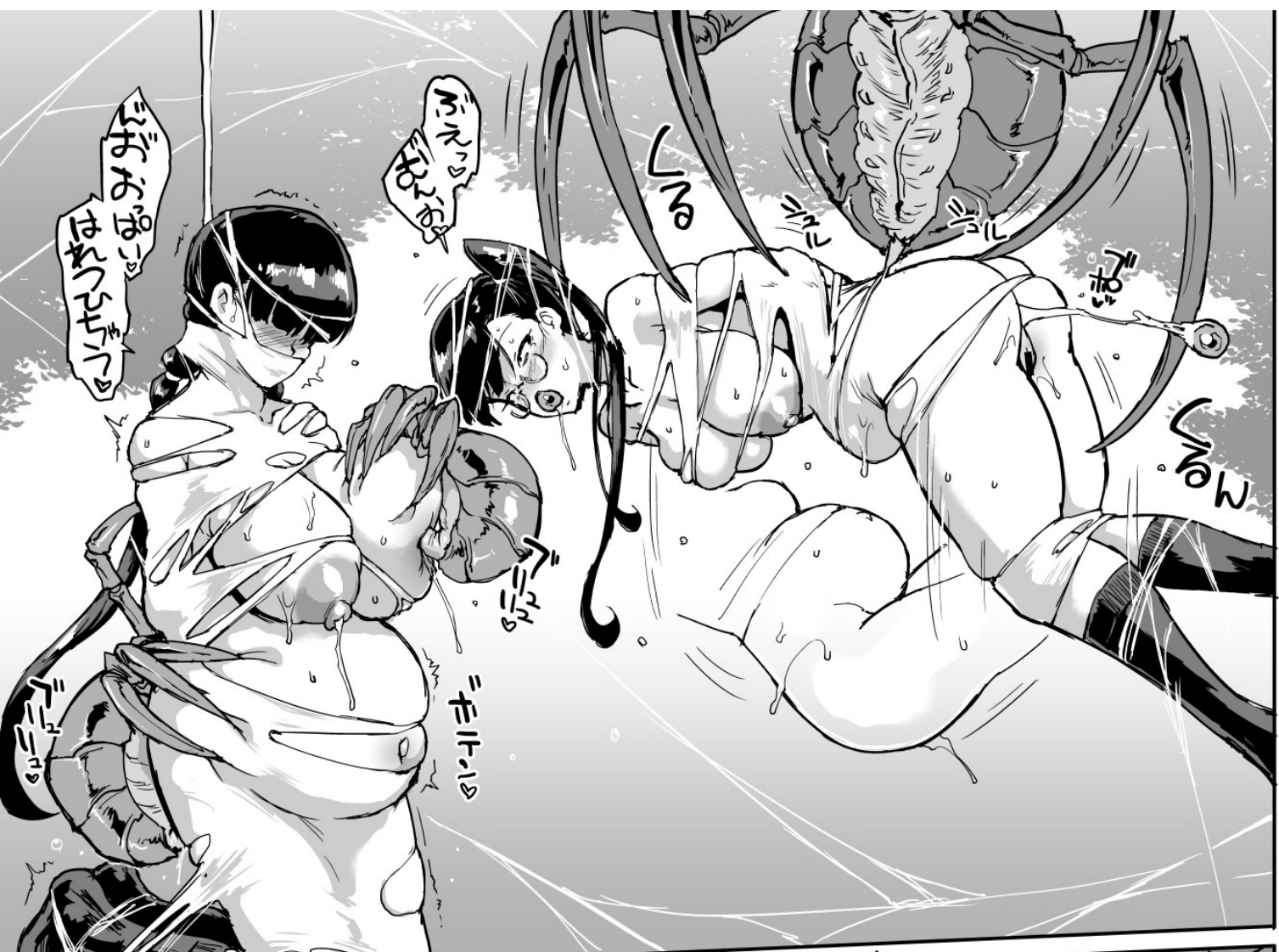


















ピッ

ピッ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

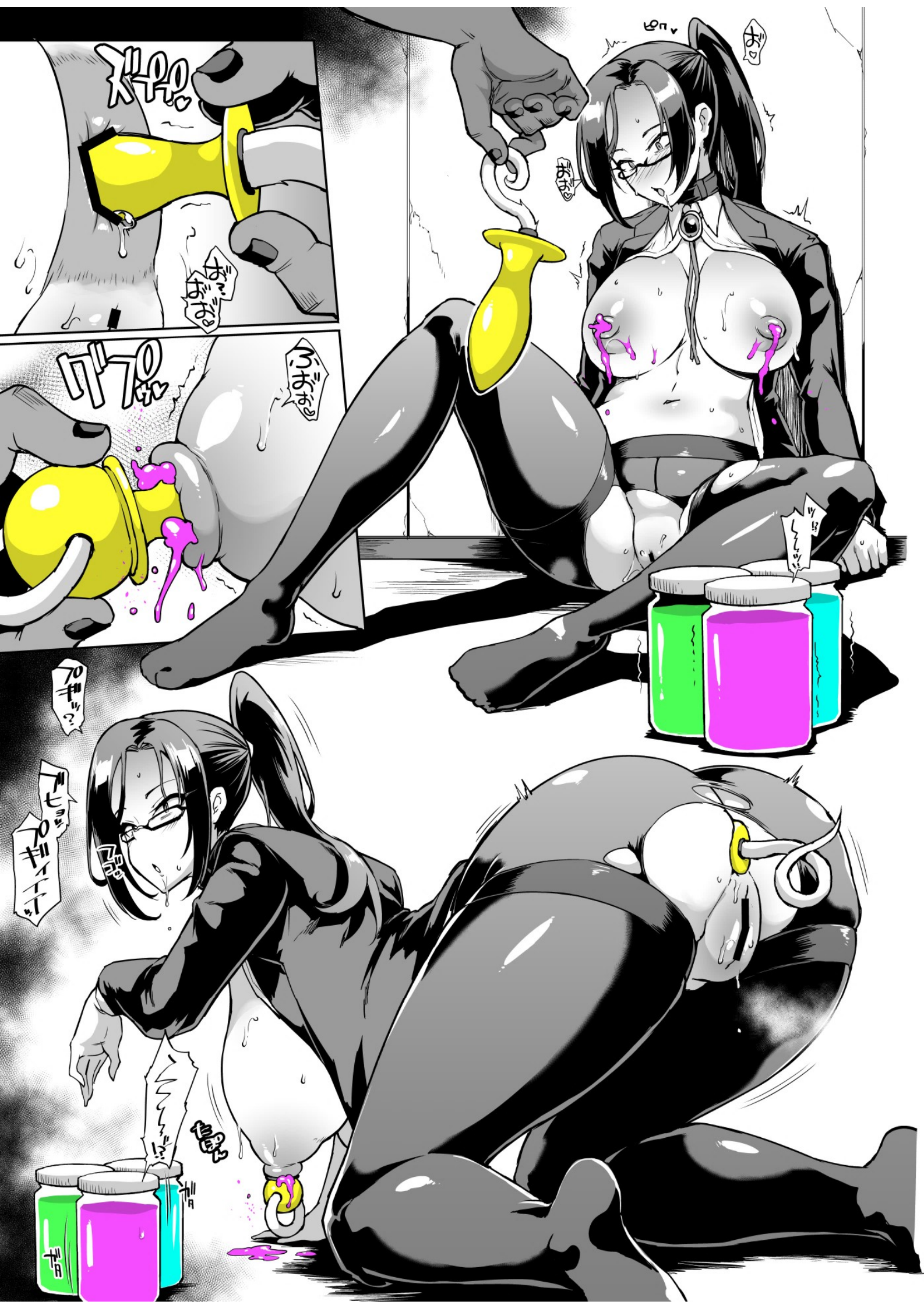
アハハハ

アハハハ



















† ~ ~ ~ ~ ~

...

ホホ

ホホ

ガッ

ガッ

ホホホホ  
ガッガッ

ホホホホ

ガッ

ガッ

ガッ

ホホホホ





